

年 報

平成25年度

平成26年 5 月

公益財団法人 山形県埋蔵文化財センター

序

山形県埋蔵文化財センターは、平成5年に財団法人として創設以来、関係諸機関の御支援・御協力をいただきながら取り組みを進めてまいりました。平成24年には公益財団法人への移行、上山市弁天から同中山への移転等がありましたが、おかげさまでもちまして、ここに設立20周年の記念すべき年を迎えることができました。本年度における当センターの事業についても、計画した事業のすべてについて円滑に実施することができました。

その概要について申し上げますと、はじめに、調査事業においては、延べ8遺跡の発掘調査と報告書作成のため整理作業を実施し、6冊の発掘調査報告書を刊行いたしました。本県における近年の発掘調査の傾向は、県公共事業の減少が引き続き見られ、国による新直轄事業の高速交通網整備に伴う事業もピークを過ぎたことから、今後予想される高速道路の県境部分の整備や県の公共事業等の事業量を的確に把握しつつ、調査体制の整備に努めていかなければなりません。今後とも、責任ある発掘調査を基本とした調査研究に取り組んでまいります。

次に、普及啓発事業につきましては、埋蔵文化財保護の重要性の周知や、埋蔵文化財を通して古代の人との心の交流の場を県民の皆さんに提供するという基本姿勢のもとに、ホームページでの情報発信や調査遺跡における発掘調査説明会の開催、広報誌「埋文やまがた」の刊行などを通して、埋蔵文化財の調査研究の成果を県民の皆さまにお知らせしてまいりました。今年度も普及啓発事業実行委員が中心となり、さまざまな普及啓発事業を計画、実施してまいりました。

中でも、遺跡発掘体験、公開講座、体験講座、遺跡見学と4回にわたり開催した「ふるさと考古学講座」では、考古学の面白さや先人の知恵や工夫に触れる機会をもつことができ、多数の参加者の方々から満足いく内容であったという声をいただくことができました。特に夏に実施した公開講座と体験講座は、上山城管理公社との共催でおこなったもので、特別展示もあわせて実施され、好評を得ることができました。平成20年度から開催している「山形県埋蔵文化財センター参観デー」は、当地中山に移転後初の実施と言うこともあり、来場者の減少が心配されましたが、内容を充実させながら、20周年企画展示、センターの業務内容の紹介、勾玉作り、整理作業などの考古学体験等を実施したところ、多くの来場者がありました。

また、山形県立うきたむ風土記の丘考古資料館との共同展示や、ゆめりあ・遊学館・山形県障がい者保養所東紅苑での「出前展示」を行い、県民の皆さんに出土品を公開し、当センターの事業への理解や文化財保護の重要性について広く普及を図ったところです。さらに、学校現場からの依頼を受けた「出前授業」は23校で実施したほか、職員を派遣しての講演や調査研究発表等を実施してまいりました。

最後に、冒頭で申し上げたように平成25年4月1日を以て設立20周年を迎えた「公益財団法人山形県埋蔵文化財センター」ですが、20年という歳月と「公益」という言葉の重みを職員一人ひとりが胸に刻み、次世代を担う子供達に地域の伝統文化の大切さを伝えるため、あるいは誇りと自信の持てる地域づくりの一助とするため、さまざまな機会を活用して、県民共有の文化遺産としての価値ある埋蔵文化財を後世に伝えて行けるよう、職員一同、一層研鑽を重ねていく所存であります。

平成26年3月31日

公益財団法人山形県埋蔵文化財センター
理事長 菅野 滋

目 次

I. 管理運営概要

1. 沿 革	3
2. 組 織	
(1) 役員及び評議員	3
(2) 職制及び人員	4
(3) 組 織	4
(4) 職 員	5
3. 施 設	6

II. 事業概要

1. 調査業務	7
(1) 調査遺跡一覧	8
(2) 調査遺跡の概要	
道出遺跡 第1次・第2次	10
馳上遺跡 第6次	12
八反遺跡 第3次	14
蟬田遺跡 第2次	18
松橋遺跡 第2次	22
山形城三の丸跡 第13次	26
元宿北遺跡	30
2. 普及・啓発・研究等業務	
(1) 研修等	
①全国埋蔵文化財法人連絡協議会事業への派遣	34
②埋蔵文化財担当者専門研修への派遣	34
(2) 普及啓発	
①普及啓発実行委員	34
②センター公開事業	35
③ふるさと考古学講座	36
④研修講座	37
⑤外部展示	37
⑥学校への協力	38
⑦来所者	39
⑧調査説明会	40
⑨職員派遣等	41
⑩資料貸出	42
⑪資料掲載許可	43
⑫出版物	43
⑬ホームページ	44
(3) 情報処理	
収蔵図書データベース	44

I 管理運営概要

1. 沿革

山形県には、土地に埋蔵された埋蔵文化財や史跡、有形文化財、民俗文化財などが数多く残されています。これらの文化財は、長い歴史の中で生まれ、育まれ、そして今日まで守り伝えられてきた貴重な県民の文化遺産であり、これを保護・活用し、次世代に確実に継承していくことが大事です。

平成 16 年に策定された第 5 次山形県教育振興計画では、「いのち」、「まなび」、「かかわり」の三つがキーワードとなっています。埋蔵文化財については、広い「かかわり」の中で、社会をつくるという基本方針のもと、「感性あふれる地域文化の創造」という視点から、保護と活用にあたることとされています。

平成 5 年 4 月に、埋蔵文化財の保護と県土の開発を両立させて調和を図るため、山形県の出資によって「財団法人山形県埋蔵文化財センター」が設立され、平成 24 年度には公益財団法人に移行しました。当センターでは、埋蔵文化財の調査研究を通じて、県民の文化生活的向上と地域文化の振興に寄与することを目的として、

1. 県内遺跡等埋蔵文化財の調査研究
2. 埋蔵文化財の発掘調査
3. 埋蔵文化財の活用と保護思想の普及

の三つを基本とした各種事業を推進しております。

近年は埋蔵文化財の教育的価値を認識してもらう視点に立って、主に「発掘調査速報会」や「ホームページによる情報提供」、「出前授業」、「外部展示」などの普及啓発活動についても力を注いでおります。

2. 組織

(1) 役員及び評議員

役員

理事長	菅野 滋	山形県教育委員会教育長（平成 25 年 4 月 1 日就任）
専務理事	三浦 秋夫	財団常勤役員
理事	佐藤 鎮雄	前 山形県立うきたむ風土記の丘考古資料館 館長
理事	佐藤 禎宏	山形考古学会 会長
理事	松田 洋一	公益財団法人山形県生涯学習文化財団 専務理事
理事	渡邊 弘明	公益社団法人山形県私立学校総連合会 常務理事
理事	山川 秀秋	山形県教育庁文化財・生涯学習課 課長
監事	椰野 哲郎	税理士有資格者
監事	駒林 雅彦	山形県教育庁総務課 課長

評議員	長澤 正機	最上地域史研究会 理事
評議員	小野 忍	酒田市文化財保護推進員
評議員	角屋由美子	財団法人米沢上杉文化振興財団 学芸主査
評議員	鈴木 恒雄	元 特殊法人山形県信用保証協会 専務理事
評議員	佐藤 庄一	東北芸術工科大学 非常勤講師
評議員	井上 和則	山形県県土整備部道路課 課長
評議員	山平 吉弘	山形県農林水産部農村整備課 農山村整備主幹

(2) 職制及び人員

事務局長	1名
課長	2名
考古主幹	1名
課長補佐	1名
係長	2名
専門調査研究員	3名
主任調査研究員	7名
調査研究員	14名
調査員	13名 (平成25年7月31日 1名退職)
事務員	4名
専門員	1名
	計49名

(3) 組織

役員 (理事会)

理事長 (非常勤)

専務理事 (常勤)

職員 (事務局)

事務局長

総務課

8名

企画情報室

5名 (内兼務4名)

整理課

17名

調査課

22名

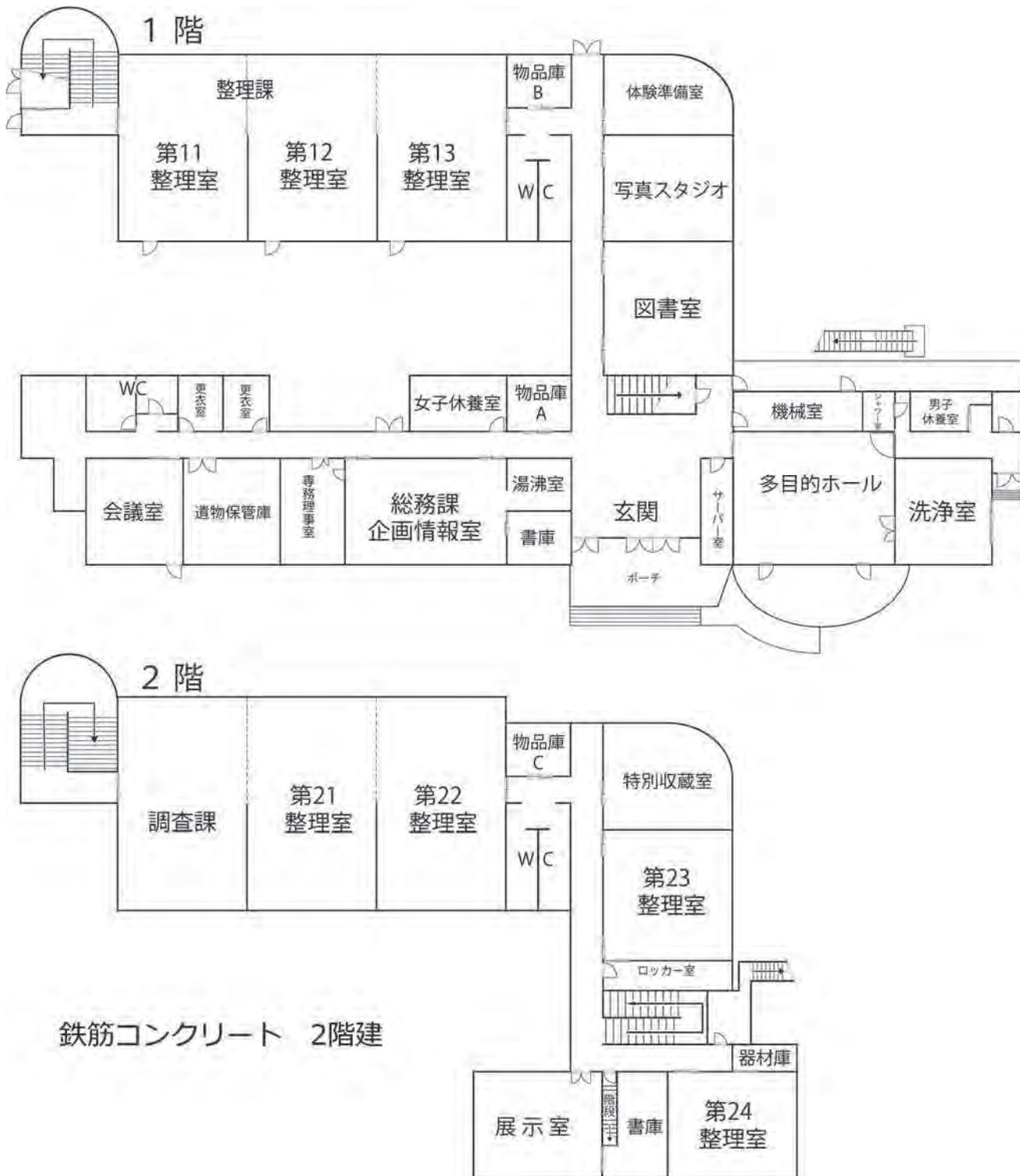
(4)職 員

課 名	職 名	氏 名	所 属
総 務 課	事務局長(兼)課長	小笠原正道	
	課長補佐	須賀井新人	財団職員
	総務係長	高桑 弘美	財団職員
	課付調査研究員	天本 昌希	財団職員
	施設管理専門員	佐藤 恒	
	事務員	渡邊 睦子	
	事務員	坂井 裕美	
	事務員	秋葉 絢子	
	事務員	中川未来絵	
企画情報室	主任調査研究員	向田 明夫	県教育職派遣
整 理 課	課 長	黒坂 雅人	財団職員
	主任調査研究員	植松 暁彦	財団職員
	主任調査研究員	齋藤 健	財団職員
	主任調査研究員	水戸部秀樹	財団職員
	調査研究員	大場 正善	財団職員
	調査研究員	菊池 玄輝	財団職員
	調査研究員	渡辺 和行	財団職員
	調査研究員	小笠原伊之	県教育職派遣
	調査研究員	伊藤 大介	県教育職派遣
	調査員	山木 巧	
	調査員	高木 茜	
	調査員	五十嵐 萌	
	調査員	後藤枝里子	
	調査員	安部 将平	
	調査員	山田めぐみ	
調査員	渡邊 安奈		
調査員	濱田 純	(平成25年7月31日退職)	
調 査 課	課 長	斉藤 敏行	
	考古主幹(兼)課長補佐	伊藤 邦弘	財団職員
	専門調査研究員	齊藤 主税	財団職員
	専門調査研究員	氏家 信行	財団職員
	専門調査研究員	小林 圭一	財団職員
	企画調整係長	原田 英明	財団職員
	主任調査研究員	菅原 哲文	財団職員
	主任調査研究員	高桑 登	財団職員
	主任調査研究員	高橋 敏	県教育職派遣
	調査研究員	草野 潤平	財団職員
	調査研究員	川崎 康永	県教育職派遣
	調査研究員	東海林弘和	県教育職派遣
	調査研究員	市川 光紀	県教育職派遣
	調査研究員	長谷部 寛	県教育職派遣
	調査研究員	庄司 昭一	県教育職派遣
	調査研究員	尾形 知哉	県教育職派遣
	調査研究員	高橋 英路	県教育職派遣
	調査員	吉田 満	
	調査員	岩崎 恒平	
調査員	高柳 俊輔		
調査員	板橋 龍		
調査員	森谷 康平		

3. 施設

公益財団法人山形県埋蔵文化財センターは、平成24年11月末まで、山形県上山市弁天二丁目15番1号にて業務を行ってきたが、耐震構造上の問題と施設の老朽化のため、同年12月1日より、山形県上山市中山字壁屋敷5608番地に移転した。

現在当所の施設は、以下の通りとなる。



II 事業概要

1. 調査業務

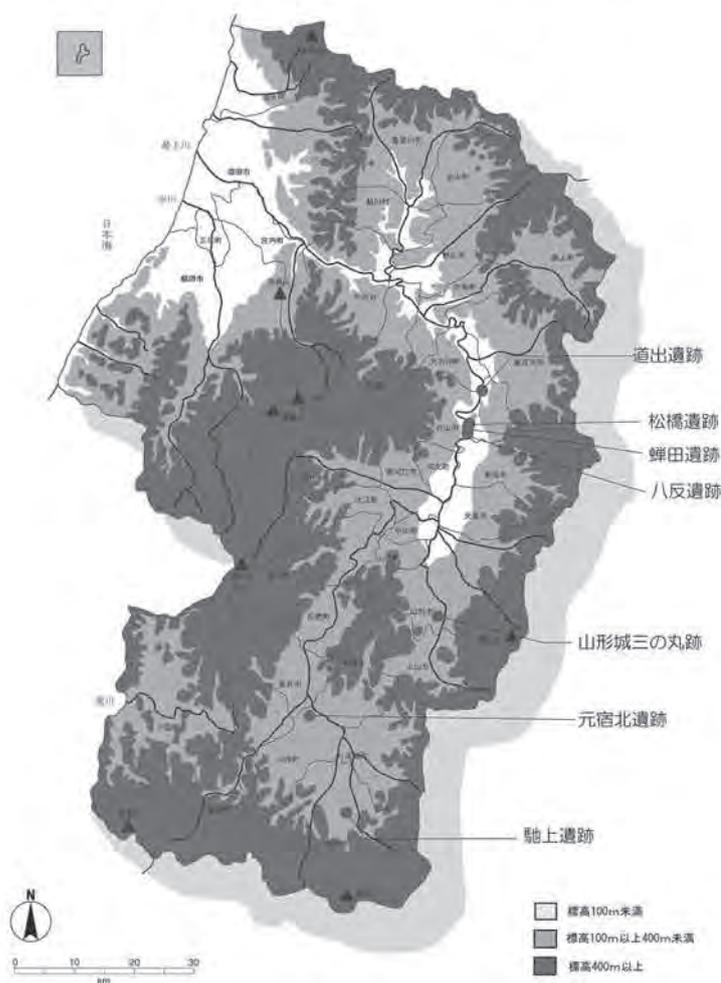
平成 25 年度は、国土交通省・農林水産省および山形県から委託を受け、道路建設などに先だっでの発掘調査と整理作業を実施しました。

発掘調査は延べ8遺跡について行い、調査面積は 21,500 m²になります。出土品は土器等 152 箱が出土文化財の認定を受けました。

報告書作成のための整理作業は延べ 25 遺跡について実施し、そのうち9遺跡6冊の発掘調査報告書を刊行しました。

- 1 どうで 道出遺跡(第1・2次)
- 2 はせがみ 馳上遺跡(第6次)
- 3 はったん 八反遺跡(第3次)
- 4 せみ た 蝉田遺跡(第2次)
- 5 まつはし 松橋遺跡(第2次)
- 6 やまがたじょう 山形 城三の丸跡(第13次)
- 7 もとじゆくきた 元宿北遺跡

平成25年度 発掘調査遺跡



※本書中の「調査遺跡の概要」の記述内容は概要の報告であり、発掘調査報告書の刊行をもって本報告となります。

(1) 調査遺跡一覧

NO.	遺跡名	所在地	主な時代	遺跡の種別	調査期間
1	道出遺跡(第1次)	村山市	縄文・近現代	散布地	5月8日～8月28日
2	道出遺跡(第2次)				
3	馳上遺跡(第6次)	米沢市	平安・中世	集落跡	10月10日～11月29日
4	八反遺跡(第3次)	東根市	古墳・奈良・平安・中世	集落跡・墓跡	5月22日～11月9日
5	蟬田遺跡(第2次)	村山市	平安・近世・近現代	集落跡	5月23日～12月13日
6	松橋遺跡(第2次)	村山市	平安・中世	集落跡	6月3日～10月23日
7	山形城三の丸跡(第13次)	山形市	奈良・平安・中世・近世	集落跡・城館跡	5月20日～10月31日
8	元宿北遺跡	川西町	奈良・平安・中世	集落跡	5月20日～9月30日
9	蔵増宮田遺跡	天童市	古墳	集落跡	
10	馳上遺跡(第5次)	米沢市	奈良・平安	集落跡	
	西谷地b遺跡(第3次)	米沢市	古墳・奈良・平安・中世	集落跡	
11	森の原遺跡(第3次)	村山市	縄文・平安	集落跡	
12	押出遺跡(第4・5次)	高畠町	縄文	集落跡	
13	西谷地b遺跡(第1・2次)	米沢市	奈良・平安・中世	集落跡	
14	沼袋遺跡	東根市	奈良・平安・中世	集落跡	
15	田向遺跡	村山市	奈良・平安	集落跡	
16	田向2遺跡	村山市	奈良・平安	集落跡	
17	経塚森遺跡	村山市	平安	集落跡	
18	清水西遺跡	村山市	旧石器・縄文・平安	集落跡	
19	沼田1遺跡	村山市	縄文・平安	集落跡	
	沼田2遺跡	村山市	縄文・平安	集落跡	
	八合田遺跡	村山市	縄文	集落跡	
20	森の原遺跡(第1・2次)	村山市	縄文・平安	集落跡	
	今宿大谷地遺跡	大石田町	縄文	集落跡	
21	山形城三の丸跡(第12次)	山形市	奈良・平安・中世・近世	城館跡	

調査面積 ：平方m	文化財認 定数：箱	起因事業<委託者>	業務内容			調査経費 ：千円
			発掘	整理	報告書	
3,500	5	東北中央自動車道（東根～尾花沢）建設〈国土交通省〉	○	○	—	34,503
1,200		一般県道大石田土生田線村山大石田I.C.〈県土整備部〉	○	○	—	14,725
500	2	東北中央自動車道（米沢～米沢北）建設〈国土交通省〉	○	○	—	31,802
3,800	58	東北中央自動車道（東根～尾花沢）建設〈国土交通省〉	○	○	—	86,759
5,000	20	東北中央自動車道（東根～尾花沢）建設〈国土交通省〉	○	○	—	72,660
1,800	10	東北中央自動車道（東根～尾花沢）建設〈国土交通省〉	○	○	—	37,543
2,700	36	一般国道112号霞城改良〈国土交通省〉	○	○	—	63,911
3,000	21	一般国道113号梨郷道路整備〈国土交通省〉	○	○	—	49,799
		主要地方道天童大江線〈県土整備部〉	—	○	○	26,901
		主要地方道米沢高畠線川井I.C.〈県土整備部〉	—	○	○	17,120
		一般県道大石田土生田線村山大石田I.C.〈県土整備部〉	—	○	○	11,277
		国営かんがい排水事業米沢平野二期農業水利事業〈農林水産省〉	—	○	○	26,340
		東北中央自動車道（米沢～米沢北）建設〈国土交通省〉	—	○	—	11,382
		東北中央自動車道（東根～尾花沢）建設〈国土交通省〉	—	○	—	28,896
		東北中央自動車道（東根～尾花沢）建設〈国土交通省〉	—	○	—	13,398
		東北中央自動車道（東根～尾花沢）建設〈国土交通省〉	—	○	—	10,311
		東北中央自動車道（東根～尾花沢）建設〈国土交通省〉	—	○	—	10,143
		東北中央自動車道（東根～尾花沢）建設〈国土交通省〉	—	○	—	23,016
		東北中央自動車道（東根～尾花沢）建設〈国土交通省〉	—	○	—	22,218
		東北中央自動車道（東根～尾花沢）建設〈国土交通省〉	—	○	○	27,300
		山形法務総合庁舎新営〈国土交通省〉	—	○	○	4,704
21,500	152					624,710

(2) 調査遺跡の概要

どうで 道出遺跡 (第1・2次)

遺跡番号 208-042
調査回数 第1次・第2次
所在地 山形県村山市土生田字道出
北緯・東経 38度33分46秒・140度23分56秒
調査委託者 国土交通省東北地方整備局山形河川国道事務所
山形県村山総合支庁建設部北村山道路計画課
起回事業 東北中央自動車道(東根～尾花沢間) 第1次
一般県道大石田土生田線(仮称)村山大石田IC設置工事 第2次
調査面積 3,500㎡ 第1次 1,200㎡ 第2次
受託期間 平成25年4月1日～平成26年3月31日
現地調査 平成25年5月8日～8月30日
調査担当者 高橋敏(調査主任)・岩崎恒平・板橋龍
調査協力 東日本高速道路株式会社東北支社山形工事事務所・村山市教育委員会・山形県教育庁村山教育事務所
遺跡種別 散布地
時代 縄文時代、近現代
遺構 陥し穴、柱穴、土坑、性格不明遺構、倒木痕
遺物 縄文土器、石器、剥片、陶器(文化財認定箱数:5箱)



遺跡位置図 (1:25,000)

調査の概要

道出遺跡は山形盆地北端の最上川右岸、ゴルフ場の南側に広がる低丘陵の南端部に立地する。最上川の氾濫原に面した南向きの緩斜面で、スイカや蕎麦などの畑地となっている。今回の調査は、高速道路本線部分を第1次、地域インターチェンジ設置部分を第2次と呼称して調査を実施した。調査区は、道出遺跡の南東端部にあたる。

遺構と遺物

調査区の北側では、いく度かの地目変更などに伴う土

木工事により大きく削平を受けており、キャタピラの跡や掘削坑などが明瞭に確認できる。

検出された遺構は、陥し穴や土坑のほか、性格不明遺

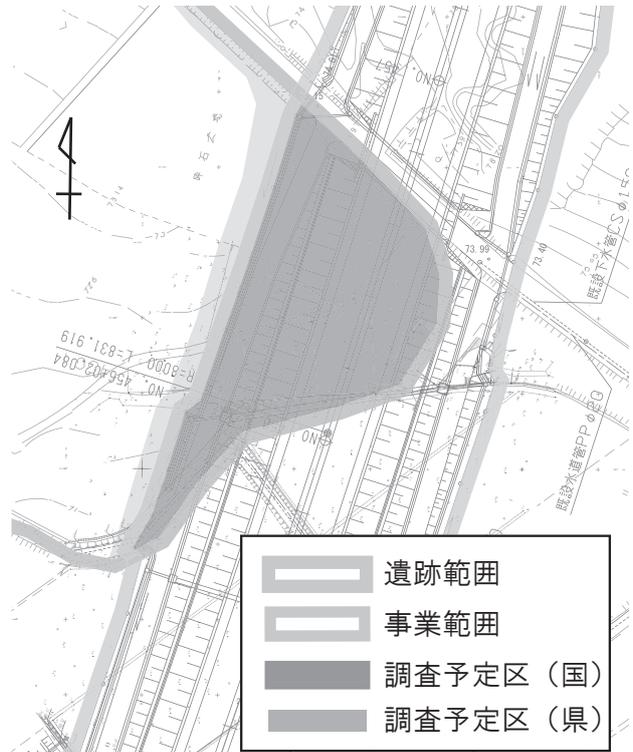


図1 調査概要図

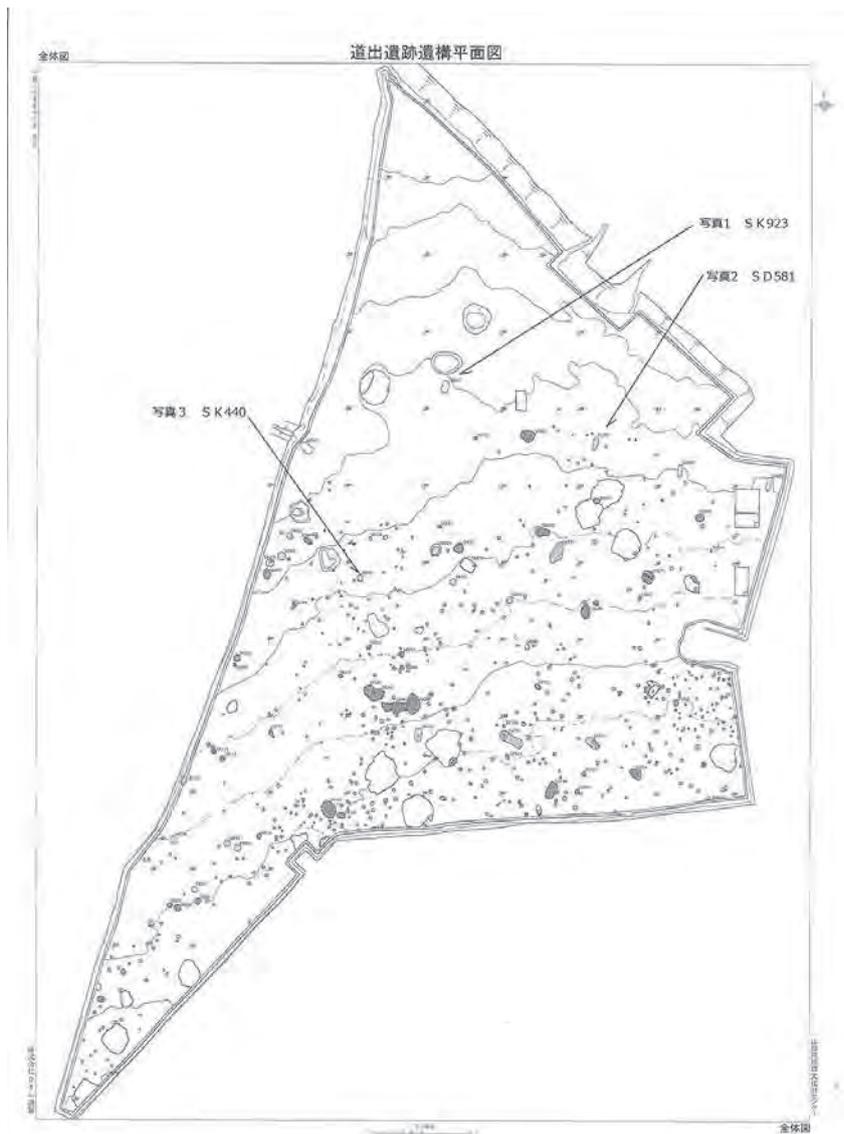


写真1 SK 923 陥し穴



写真2 SD 581 陥し穴



写真3 SK 440 陥し穴

図2 遺構配置図 (縮尺任意)

構、陥し穴状遺構・ピット状遺構や倒木痕など 920 基ほど確認されている。しかし、どの遺構からも出土遺物が無かったことから、これらの帰属時期は不明である。

陥し穴は溝状の長楕円形を呈するものや、円形を呈するものなど複数のタイプが確認されている。なかでも長楕円形の陥し穴は、等高線に直交してほぼ等間隔で並んでおり、けもの道などに設置されたと考えられる。また、底面に逆茂木を据えた穴が確認できるものもある。

遺物は縄文土器、および極少量の石器の出土にとどまった。調査区が遺跡の南東端であり、集落域の中心部からは外れているのかもしれない。縄文土器は県の試掘調査トレンチの最下層の埋め土からの出土である。

まとめ

今回の調査では、集落跡をうかがわせるような遺構は、

確認することはできなかった。調査区は遺跡範囲の南東端部にあたり、集落の縁辺で水場に向う鹿や猪などを狙う狩猟の場だった可能性がある。調査区西側の遺跡中心域と考えられる範囲は、現在畑地として利用されており、地下に眠る遺構や遺物は良好に残っていると思われる。今後の計画的で詳細な調査に期待したい。



写真4 試掘トレンチ出土の縄文土器

はせがみ 馳上遺跡 (第6次)

遺跡番号 山形県遺跡番号 202-560・202-562 / 米沢市遺跡番号 353・354
調査回数 第6次
所在地 米沢市大字川井字元立
北緯・東経 37度55分23秒・140度08分08秒
調査委託者 国土交通省東北地方整備局山形河川国道事務所
起因事業 東北中央自動車道(米沢～米沢北間)
調査面積 500㎡
受託期間 平成25年4月1日～平成26年3月31日
現地調査 平成25年10月10日～11月29日
調査担当者 草野潤平(現場責任者)・高橋英路
調査協力 東日本高速道路株式会社東北支社山形工事事務所・米沢市教育委員会・置賜教育事務所
遺跡種別 集落跡
時代 平安時代・中世
遺構 竪穴住居跡・掘立柱建物跡・溝跡・土坑・柱穴・河川跡
遺物 土師器・須恵器・陶磁器・石製品・鉄滓・古銭 (文化財認定箱数: 2箱)



遺跡位置図 (1:50,000)

調査の概要

馳上遺跡は、最上川の支流である羽黒川右岸の後背湿地上に立地する集落遺跡である。これまでの調査で、古墳～平安時代を中心とする生活の痕跡が確認され、北側では中世の遺構も少数ながら認められる。大型の建物跡が比較的多く検出された点や、硯・墨書土器・木簡といった特殊な遺物の出土から、古代の役所に関連する遺跡の可能性など、拠点的な性格を持つ集落と目されている。

今年度は、平成22年度に実施した第3次調査区の北東に位置する小区画が調査対象となった(図1)。

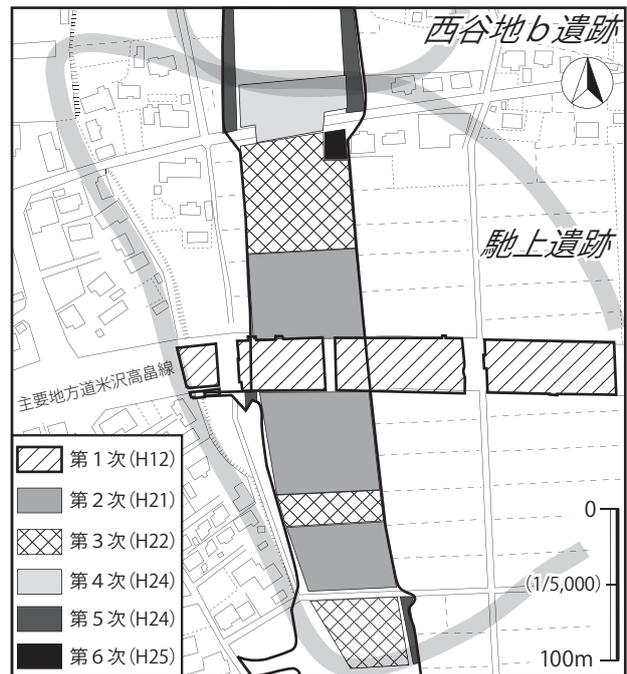


図1 馳上遺跡第1～6次調査区概要図 (1/5,000)

遺構と遺物

表土・造成土を除去した結果、調査区範囲の大部分は河川跡で占められていることが判明した(図2)。馳上遺跡や北に隣接する西谷地b遺跡の過年度調査では、複雑に蛇行する河川跡が幾筋も認められ、その多くは遺物の出土状況から古墳～平安時代に埋没したものと考え

られる。今年度検出された SG8001 河川跡は、位置関係から昨年の第 4 次調査区南東側で確認された SG7657 の続きと考えられ、土器などの遺物出土量が少ない点も共通する（写真 1）。河川跡の堆積土層を掘り下げると、調査区東側で南北に重複する竪穴住居跡 2 軒が確認された（写真 2）。竪穴住居跡は出土土器から 9 世紀前半～中葉に位置づけられる。また河川跡西岸で検出された土坑（写真 3）の上層からは、9 世紀後半の須恵器有台坏（写真 4）が出土した。これらの成果から、SG8001 河川跡は馳上遺跡の盛期を過ぎてから形成された流路と考えられる。河川跡の堆積土上には掘立柱建物跡を構成する小型の柱穴が確認でき、西谷地 b 遺跡を中心とする中世の屋敷地が営まれる頃には埋没していたと想定される。

まとめ

今回の調査では、馳上遺跡北東部を流れる河川跡の形成時期に迫ることができ、また集落全体のなかで古代の遺構の粗密がより明確になったと言える。

東北中央道建設に伴う馳上遺跡の発掘調査は、今回をもって完了を迎えた。今後報告書の刊行に向けて出土遺物・記録類の整理・検討を進める予定である。

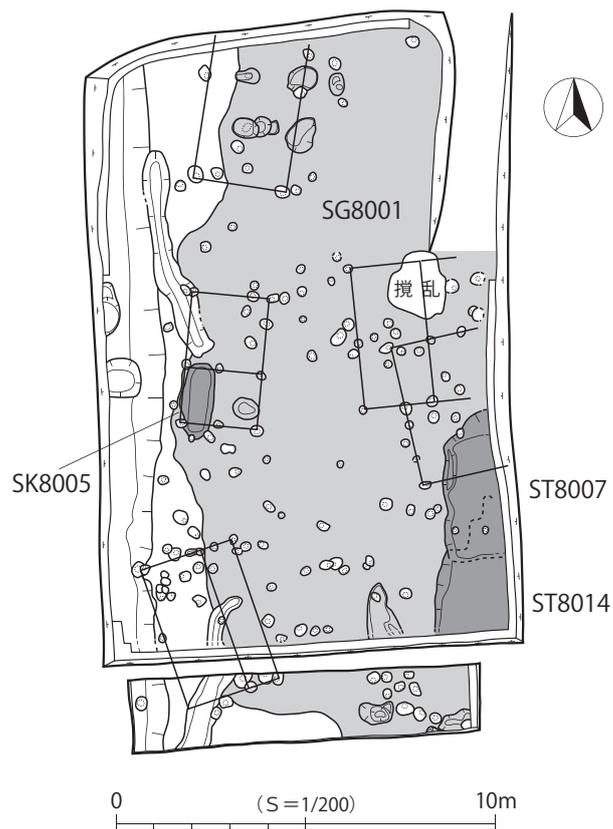


図 2 第 6 次調査遺構配置図 (1/200)



写真 1 SG8001 河川跡（北西から）



写真 2 ST8007・ST8014 竪穴住居跡（北西から）



写真 3 SK8005 土坑の須恵器出土状況（北東から）



写真 4 SK8005 土坑出土の須恵器有台坏

はったん 八反遺跡 (第3次)

遺跡番号 211-029
調査回数 第3次
所在地 山形県東根市大字長瀬字八反
北緯・東経 38度28分9秒・140度21分33秒
調査委託者 国土交通省東北地方整備局山形河川国道事務所
起因事業 東北中央自動車道(東根～尾花沢間)
調査面積 3,800㎡
受託期間 平成25年4月1日～平成26年3月31日
現地調査 平成25年5月22日～11月9日
調査担当者 高桑登(現場責任者)・長谷部寛・尾形知哉
調査協力 東日本高速道路株式会社東北支社山形工事事務所・水土里ネット東根村山・東根市教育委員会・村山教育事務所・山形県教育委員会
遺跡種別 集落跡
時代 古墳時代・奈良時代・平安時代・中世
遺構 掘立柱建物跡・溝跡・土坑・柱穴
遺物 土師器・須恵器・石製品・陶磁器・木製品・金属製品・古銭 (文化財認定箱数:58箱)



遺跡位置図 (1:50,000)

調査の概要

八反遺跡は最上川右岸の自然堤防上に位置する。遺跡周辺の果樹園や畑、水田の地割には最上川の旧河道の痕跡が残されており、一帯が最上川の氾濫原であったことがわかる。旧河道に沿って沼袋遺跡、長瀬本楯館跡等、古代から中世の遺跡が分布している。地元の伝承では、遺跡の周辺に壇状の地形が8箇所あったとされ、「八反」の地名の由来となっている。

調査区中央を横断する農道より南をA区、北をB区

としている(図1)。平成23年度にA区1面、平成24年度にA区2・3面及びB区1面の調査を実施した。平成25年度はB区2面及び農道部分に当たるC区1・2面の調査を実施した。

遺構と遺物

昨年度の調査ではA区2面の南半部に古墳時代から平安時代の竪穴建物、北半部に中世前期の溝や柱穴群が分布することが確認されていた。今年度の調査で溝や柱穴群が北側のB区2面まで分布していることが確認され、遺跡の北半部に中世前期の集落が展開していることが明らかとなった。遺跡の立地する自然堤防上で、河川跡に近い微高地上に古墳時代から平安時代の集落が展開し、北側のやや低い土地に中世前期の集落が立地する。

座標北より15～25°西に傾く南北方向の溝と、それらにほぼ直交する東西方向の溝が掘られ、溝の内側に柱穴や井戸が集中する。集落の区画や排水のために掘られた溝と考えられる。

B区の中央部では南北約10m、東西約20mの範囲を囲む不定形の溝が検出された(写真3)。この溝の内側には整地の痕跡が認められ、直線的な石列が見つまっている。宗教的な施設の可能性がある。この周溝状の遺

構から北に約 20 m の地点から、一括出土銭が出土した。
(写真 2・8)

一括出土銭は、直径約 50cm、検出面からの深さ約 40 cm の土坑から、曲物に納められた状態で出土している。曲物は直径約 30cm、高さ 15cm、上部は重ねられた 2 枚の折敷おしきで蓋されていた。側板の一部が破損していることから、空の状態さしで曲物を埋め、その後に銭を納めたと考えられる。古銭は緞さしの形状が完全に遺存している。5 本の緞銭を一単位として、外側から内側に向かって渦巻状に緞銭を納めた様子が見て取れる。最上段には 16 本の緞銭が確認でき、1 緞の枚数は 88 枚から 100 枚とばらつきがある。緞の隙間から 2 段目の緞が確認できることから、少なくとも 2 段目までは緞の状態であることがわかる。紐は遺存していないが、緞の端部に植物質の痕跡が認められる。曲物を含めた重量は 34kg で、重量や曲物の容量、最上段で確認できる枚数等から、9,000 ～ 10,000 枚の古銭が納められていると考えられる。古銭が出土した土坑の周辺には柱穴が多く分布しているが、建物の配置や一括出土銭との関係は、現段階では不明である。

溝や土坑、井戸からは、中国産の陶磁器や古瀬戸、こせと 珠洲、在地産の瓷器系陶器など 12 ～ 14 世紀を中心とした遺物が出土している(写真 7)。在地産の瓷器系陶器、越前、珠洲が一括して出土した遺構が注目される(写真 6)。壺、甕、挿鉢つぼ かめ すりばちといった生活用具の他、茶入や合子、ちいれ ごうす 硯など、一般の集落には少ない特殊な遺物が目立つ。

第 2 面の遺構検出面は礫層に覆われている。また、堆積土に砂礫層を含む井戸等が検出されていることから、第 2 面で確認された中世前期の集落は洪水によ

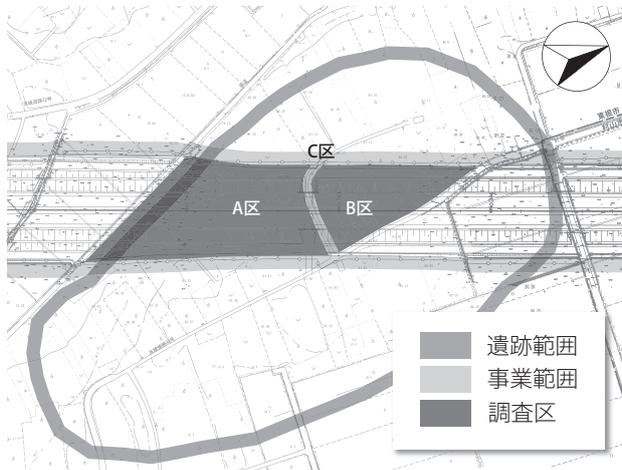


図 1 調査区概要図 (1/5,000)



写真 1 遺跡近景 (南から)



写真 2 一括出土銭

て廃絶したと考えられる。礫層上面で中世後半の埋葬施設を中心とした遺構群を検出している。

まとめ

八反遺跡の北半部には、溝に区画された中世前半の集落が展開していることが明らかとなった。不定形の溝に囲まれた施設や特殊な遺物の存在等から、宗教的な性格の強い集落であった可能性がある。一括出土銭の発見も注目される。礫層の存在から、集落は洪水によって廃絶し、その後この一帯は葬送の場へとその性格を変えたと考えられる。

山形県内で 1,000 枚を超える一括出土銭は不時発見等の例を含めて、20 例程度が確認されている。発掘調査で見つかったものとしては酒田市梵天塚遺跡で見つかった 1,758 枚の例がある。今回確認された一括出土銭は、容器や緞の遺存状態が極めて良好であることから、銭の取り上げは行わず、現状のまま保存することを検討している。

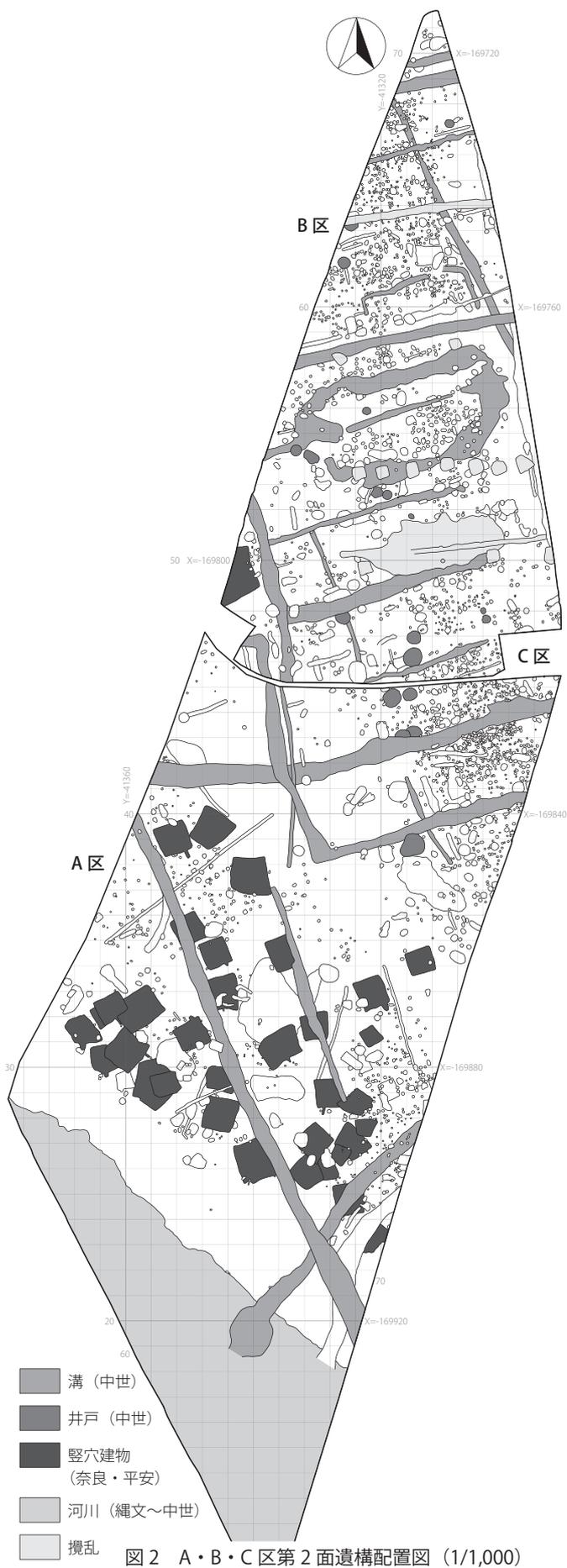


写真3 B区2面全景 (北から)



写真4 B区2面中央部周溝状遺構 (上が南)



写真5 五輪塔出土状況 (北西から)



写真6 瓷器系陶器一括出土状況（南から）

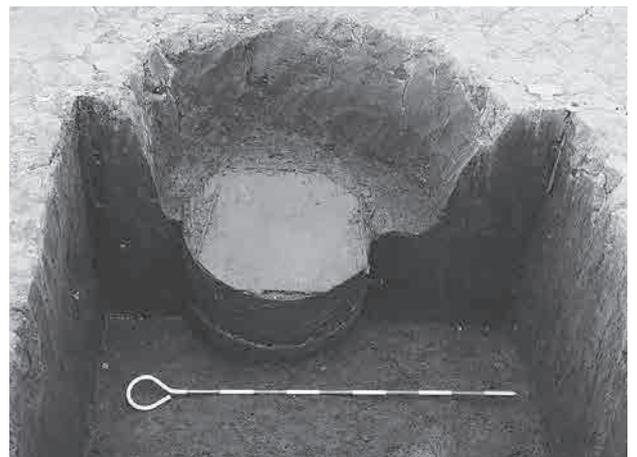


写真8 一括出土銭出土状況（西・北西から）



写真7 出土遺物

せみた 蟬田遺跡 (第2次)

遺跡番号 208-151
調査回数 第2次
所在地 山形県村山市大字西郷
北緯・東経 38度29分45秒・140度22分13秒
調査委託者 国土交通省東北地方整備局山形河川国道事務所
起因事業 東北中央自動車道(東根～尾花沢間)
調査面積 5,000㎡
受託期間 平成25年4月1日～平成26年3月31日
現地調査 平成25年5月23日～12月13日
調査担当者 齊藤主税(現場責任者)・庄司昭一・吉田満
調査協力 東日本高速道路株式会社東北支社山形工事事務所・村山東根土地改良区・村山市教育委員会・
山形県教育庁村山教育事務所

遺跡種別 集落跡
時代 平安時代・近世・近現代
遺構 溝跡・土坑・柱穴
遺物 土師器・須恵器・陶磁器・石製品・木製品・金属製品 (文化財認定箱数: 20箱)



遺跡位置図 (1:50,000)

調査の概要

蟬田遺跡は村山市名取西郷地区に所在する。遺跡の西側には、最上川と蟬田川が南北方向に蛇行しながら流れる。周辺の地形は沖積地で水田が広がる。また、遺跡付近は浮沼^{うきぬま}という地名があり、名の由来通りに地盤の柔らかい場所に遺跡が立地している。

本遺跡は平成24年度に調査面積6,000㎡の1次調査が行われた。1次調査では平安時代、9世紀後半～10世紀前半の掘立柱建物跡・土坑・河川跡・溝跡などの遺

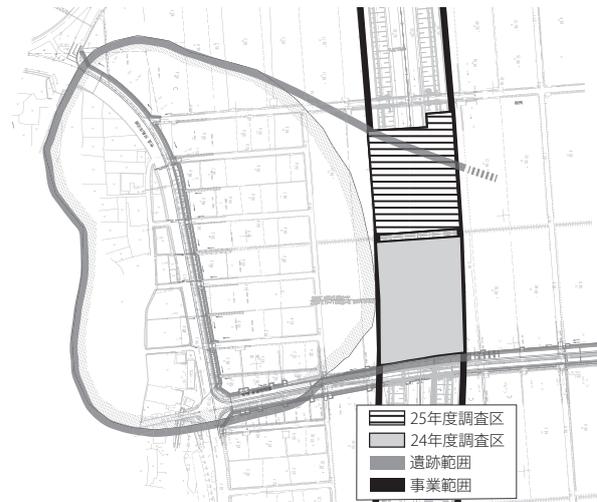


図1 調査概要図(縮尺任意)

構が検出された。その中でも河川跡からは土師器・須恵器・木製品など大量の遺物が出土した。

特に完形の土師器環が多数出土したことと、各種の木製品が出土したことが注目された。木製品には斎串^{いぐし}・形代^{さいしいぶつ}の祭祀遺物、鋤・鍬・横槌などの農具、漆器・扇・横櫛・下駄・曲げ物・盤などの生活具、高床の床板・柱根などの建築部材など豊富な種類がある。

これらの木製品には付け木も多数含まれるが、付け木の他にも端部が炭化した板状品、棒状品が多いのが特徴

的である。この他に墨書土器や少量だが木簡も見られる。

2次調査は1次調査区の北側に隣接する地区の5,000㎡について調査を実施した。調査区の東側は20cm程の表土で地盤が赤褐色土で固く締まる。西側の中央から南部では検出面まで1m以上で軟弱地盤である。

遺構と遺物

検出された遺構は、溝跡、土坑、ピット等で、主に平安時代の遺物が出土している。

溝跡は調査区東側で確認されており、地形が北から南へ低くなっていることから、北から南へ流れていたことが推測される。調査区南東部分で検出された溝跡は平安時代、またSD130溝跡は、近世～近代にかけてのものと思われ、杭が打ち込まれた痕跡や人頭大の川原石が敷き詰められている状況から堰跡と見られる。SD130からは、近世の陶磁器や近代のガラス瓶等の他に、平安時代の土師器、須恵器も出土している。

土坑は調査区の東側を中心に確認されている。規模・形・堆積土等異なった様相を呈している。須恵器甕の破片が検出面で確認された土坑(SK141)、遺構の周縁部に白い堆積土が廻る土坑(SK115)等、平安時代の土坑が

多くを占めている。SK111土坑からは板4枚を組み合わせた箱型の木製品(縦約40cm、横約25cm)が出土している。板の組立てには断面が四角い鉄釘が用いられており、これは江戸時代まで使用されていたと考えられている。また横長の取っ手穴が一对あいている。遺構上面から江戸時代の陶磁器片が一個出土している。用途は不明である。

上記遺構の他に、性格不明の土坑状の竪穴が確認された。主に地形の低い調査区中央部に集中している。土層の堆積を観察すると、木が倒れたような痕跡(風倒木)と想定される。

平安時代の遺物は土師器・須恵器等の坏・甕が出土している。また近世以降の遺物は陶磁器、木製品、古銭等が出土している。

まとめ

今回の調査では、主に平安時代の遺構・遺物が出土された。遺構は特に調査区東側の標高の高い地区に良好に遺存し、西側の低い部分では遺構数は少なくなる傾向にある。昨年の調査成果と併せ、さらに東側に遺跡が広がることが考えられる。



写真1 25年度調査区全景(北から)



写真2 SK112土層断面(南から)



写真3 SD130土層断面(北から)



0 10m
1 : 500

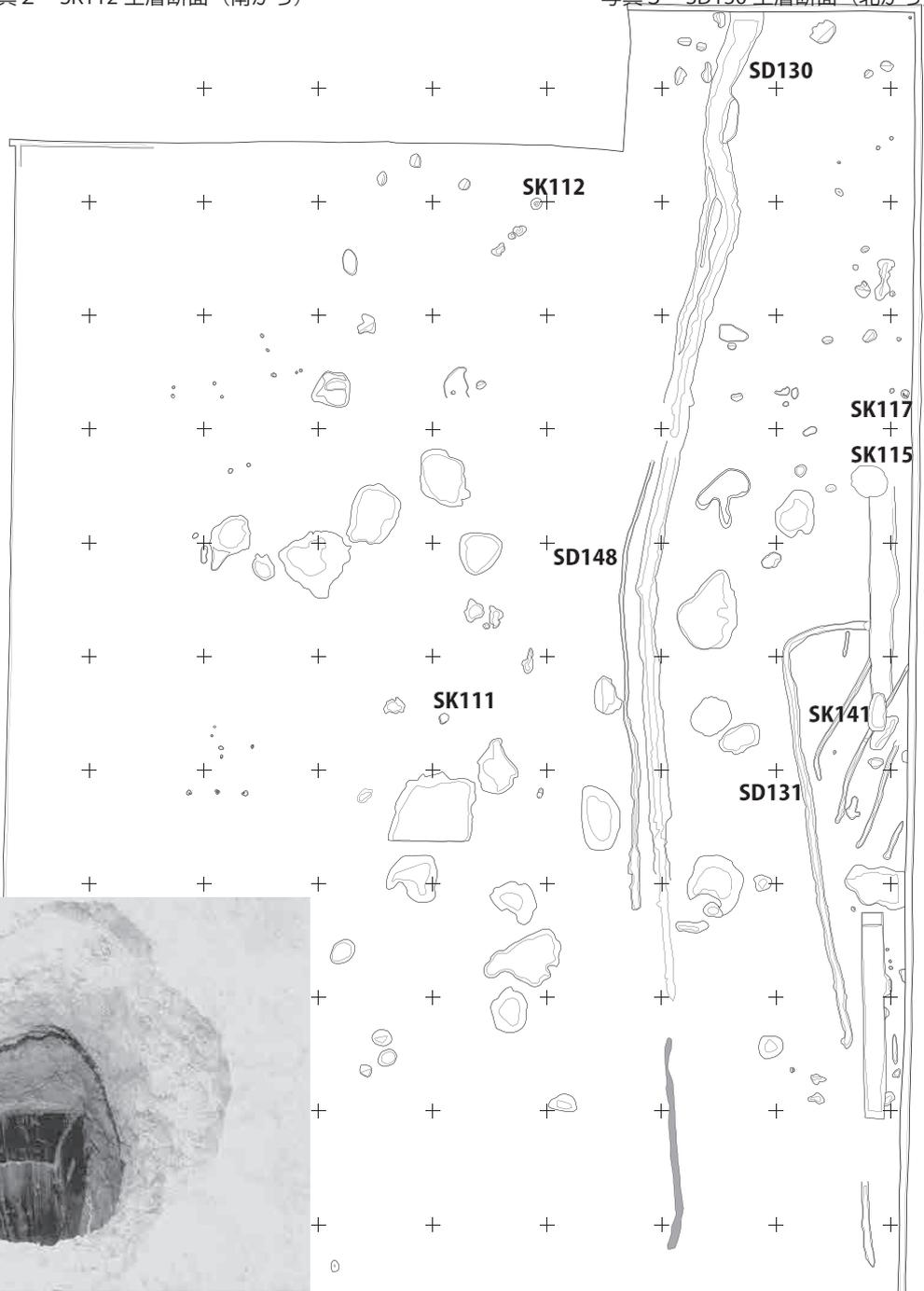


図2 遺構配置図 (S = 1/500)



写真4 SK111木製品出土状況(南から)



写真5 SK115 検出状況（南西から）



写真6 SK115 土層断面（北西から）



写真7 SK115 完掘状況（南東から）



写真8 SK141 遺物出土状況（北西から）



写真9 24年度調査区全景（東から）

まつはし 松橋遺跡 (第2次)

遺跡番号	208-138
調査回数	第2次
所在地	山形県村山市大字名取字松橋
北緯・東経	38度30分03秒・140度22分15秒
調査委託者	国土交通省東北地方整備局山形河川国道事務所
起因事業	東北中央自動車道(東根～尾花沢間)
調査面積	1,800㎡
受託期間	平成25年4月1日～平成26年3月31日
現地調査	平成25年6月3日～10月23日
調査担当者	氏家信行(現場責任者)・森谷康平
調査協力	東日本高速道路株式会社東北支社山形工事事務所・村山東根土地改良区・村山市教育委員会・村山教育事務所
遺跡種別	集落跡
時代	平安時代・中世
遺構	掘立柱建物跡・溝跡・井戸跡・土坑・柱穴等
遺物	石器・土師器・須恵器・陶磁器・石製品(文化財認定箱数:10箱)



遺跡位置図 (S = 1 : 50,000)

調査の概要

遺跡は、村山市東部に位置し、村山市役所から北西約500mの名取地区の松橋集落の自然堤防に立地する。現況は畑地・果樹・宅地で、南側を市道浮沼名取線が走る。

平成11年度に山形県教育委員会により遺跡として登録され、平成21年度と24年度に実施された試掘調査の結果、溝跡や柱穴などの遺構や土師器などの遺物が見つかったことから発掘調査が必要と判断された。

今回の調査は、東北中央道(東根～尾花沢間)建設工事に伴う緊急発掘調査で、平成22年度に続く第2次調査である。事業実施範囲内の第1次調査で未調査部分であった、南東部分の約1,800㎡について調査を行った。

調査は、重機を使用して表土を掘削した後、土を削る遺構検出作業、そして、遺構の掘り下げと併行して写真撮影や図面作成などの記録作業を進めた。

遺構と遺物

遺構は、掘立柱建物跡、溝跡、井戸跡、土坑、柱穴と遺構の集中区域が調査区中央東側に検出された。

建物跡は、柱間距離が2.0～2.5mを測る、2間×3間の規模を持つ、南北軸のもの1棟が確認され、柱穴から土師器が出土した。出土遺物の特徴や柱穴の大きさなどから、古代の建物跡と考えられる。

溝跡には、調査区をほぼ直角に曲がる区画施設と考えられるもの、第1次調査区から続く、調査区を東西に横断する溝跡がある。

井戸跡は10基確認された。全て素掘りのもので、開口部と底面の広さがほぼ同じになる寸胴型のものと、開口部が広く底面が狭くなる播鉢型のものが認められた。

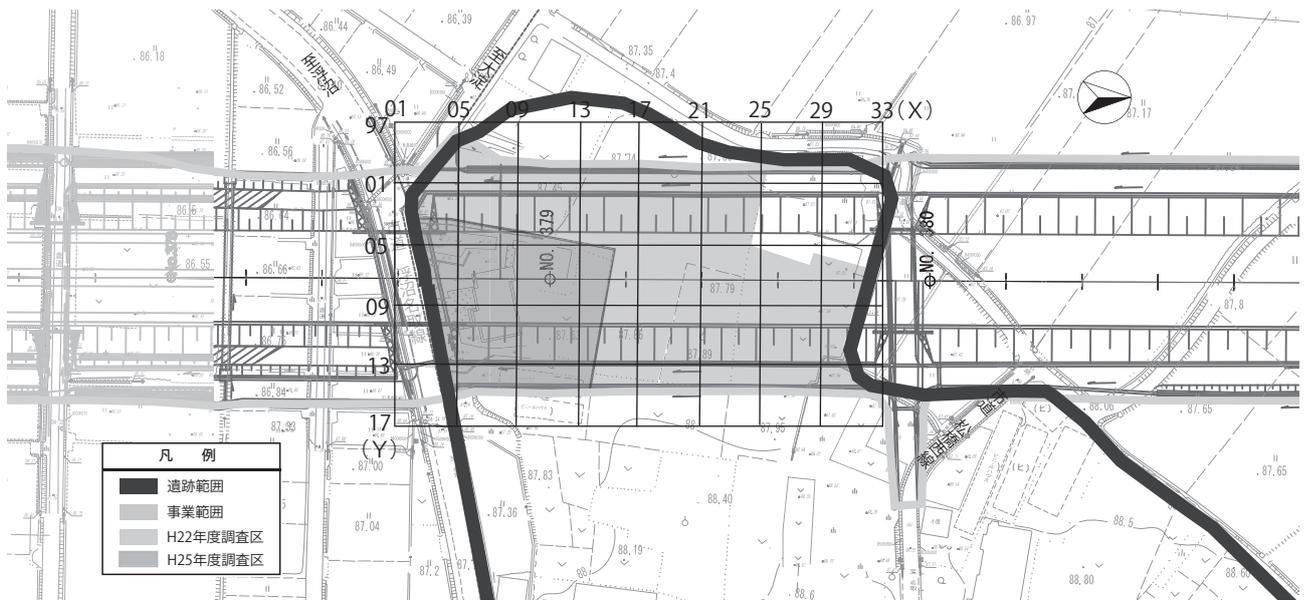


図1 調査区概要図 (S = 1 : 2,000)

その形態の違いから構築時期が違うと考えられ、覆土から石鉢が出土したものがあ。第1次調査と合わせて22基の井戸跡が確認された。

土坑や柱穴は、重複するものが多く検出された。特に中央東側の集中域は、建物の建てかえが行われた様相を示し、数棟の建物の存在が考えられる。

遺物は、平安時代の土師器と須恵器が多く出土したが、破片が大半を占め保存状態は良くない。

土師器は赤褐色の素焼きの土器である。器種は坏や高台付坏、甕などが多くみられる。

須恵器は窯で焼かれた灰色の土器である。器種は甕の体部や底部、坏などで土師器に比べ出土数は少ない。

これらの土器は、坏の底部切り離し痕や器形などから9～10世紀頃の所産と考えられる。その他にも、石鉢、^{すずり}硯、^{かんじょうどすい}砥石、管状土錘や中近世の陶磁器も出土した。また、1点のみだが、縄文時代の石鏃もある。1次調査でも、縄文土器が出土していることから、周辺に縄文時代の遺跡の存在が推測される。

まとめ

今回の調査では、掘立柱建物跡、溝跡、井戸跡、土坑などの遺構が検出され、土師器、須恵器、石製品、陶磁器などが出土し、第1次調査区から続く平安時代から中近世にわたる集落の痕跡が確認された。遺跡の特徴としては、第1・2次調査を通し、竪穴住居が無かったことと井戸跡が多く掘られていることが挙げられる。そして、

今後の詳細な検討が必要であるが、区画施設とも考えられる直角に曲がる溝跡、掘立柱の建物群を推測させる遺構の集中区域などからは豪族の館跡の可能性があ。また、今回の遺構の配置を見ると、集落はさらに東側に広がるということが明らかになった。



写真1 調査区全景 (北から)



写真2 作業風景 (北から)



凡 例	
	掘立柱建物跡
	井戸跡
	溝 跡

図2 遺構配置図 (S = 1 : 300)



写真3 遺跡全景（北から）

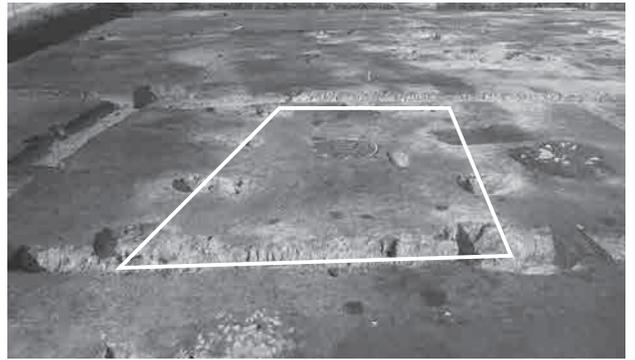


写真6 2間×3間の建物跡（南から）



写真7 遺構の集中区域（南から）



写真4 搦鉢型の井戸跡（東から）



写真8 直角に曲がる溝跡（南から）



写真5 寸胴型の井戸跡（南から）



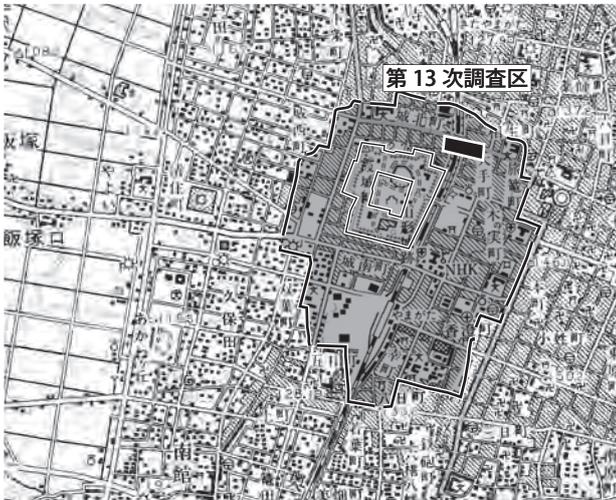
写真9 土師器の坏（南から）



写真10 石鉢（西から）

やまがたじょうさんのまるあと
山形城三の丸跡 (第 13 次)

遺跡番号	201-003
調査回数	第 13 次
所在地	山形県山形市城北町一丁目・大手町
北緯・東経	38 度 15 分 31 秒・140 度 19 分 59 秒
調査委託者	国土交通省東北地方整備局山形河川国道事務所
起因事業	一般国道 112 号霞城改良事業 (城北町・大手町)
調査面積	2,700㎡
受託期間	平成 25 年 4 月 1 日～平成 26 年 3 月 31 日
現地調査	平成 25 年 5 月 20 日～10 月 31 日
調査担当者	小林圭一 (現場責任者)・川崎康永・東海林弘和・市川光紀
調査協力	山形市上下水道部・山形市教育委員会・山形県教育庁村山教育事務所
遺跡種別	集落跡・城館跡
時代	奈良時代・平安時代・中世・近世
遺構	竪穴住居跡・溝跡・土坑・柱穴・井戸跡・河川跡
遺物	縄文土器・土師器・須恵器・陶磁器・金属器・瓦・銭貨 (文化財認定箱数：36 箱)



遺跡位置図 (1 : 50,000)

調査の概要

山形城三の丸跡は、霞城公園のある山形城 (本丸・二の丸) を取り囲む東西約 1.6km、南北約 2 km の広大な城館跡で、文禄・慶長年間 (1592 ～ 1615 年) に最上氏第 11 代当主の最上義光が、三重の堀を構えた城郭として整備したと言われており、国内では 5 番目の広さで、奥羽地方では最大の城であった。しかし最上氏は元和 8 年 (1622 年) に第 13 代義俊が改易され、それ以降鳥居氏から水野氏まで藩主が転封・入部を繰り返し、石高も 57 万石から 5 万石まで削減された。その結果、次第

に広大な山形城を維持することが困難となり、手入れが行き届かず、幕末期の水野氏 5 万石時代には三の丸のほとんどが水田や畑になっていたと言われている。

今回の発掘調査は、国道 112 号の拡幅工事に起因するもので、一昨年の第 9 次調査、昨年の第 11 次調査に続いて実施された。昭和橋の西側の城北町が F 区、東側の手町が G 区と H 区の三つの調査区に区分して、F 区、G 区、H 区の順序で実施した。

遺構と遺物

昭和橋西側の F 区では、石組みの井戸跡が 2 基検出された。そのうちの 1 基は石組みの直径が約 1 m、深さは地表面から 2 m 以上に達するもので、周辺から出土した陶磁器類から、近世に作られ使用されたと判断される。

昭和橋東側の G 区では、奈良・平安時代の竪穴住居跡が 6 棟、近世の井戸跡が 2 基、その他に近世～近代にかけての土坑や溝跡が検出された。竪穴住居跡は一辺が 4 ～ 6 m の方形で、深さが 10 ～ 30 cm 程度と浅く、主軸は 4 方位を向いており、いずれも出土土器から 8 ～ 9 世紀代の住居跡と考えられる。近世の土坑では、捨てられた瓦がまとまって出土した土坑が 2 基検出された。瓦の文様から 17 世紀中頃～後半にかけての瓦とみられ、建

物の改修などで廃棄されたと考えられる。

遺物としては、古墳時代の土師器や奈良・平安時代の土師器・須恵器、近世の陶磁器類が出土している。中には16世紀末～17世紀初め頃に九州の唐津で作られた陶器など、最上氏の時代に関係した遺物も含まれている。

まとめ

今回の調査では、奈良・平安時代～近世・近代まで各時代の遺構・遺物が検出された。特に古代の住居跡が6

棟検出され、生活の重要な場所になっていたことが確認できた。江戸時代には武家屋敷となっていた一帯は、古代から既にある程度の規模の集落が存在しており、そうした集落を基盤に城下町が形成され、それが近代の山形市街地へとつながったと考えられる。現在の県都である山形市の中心地には、古代から連綿と続く人々の生活の跡が残っていた。

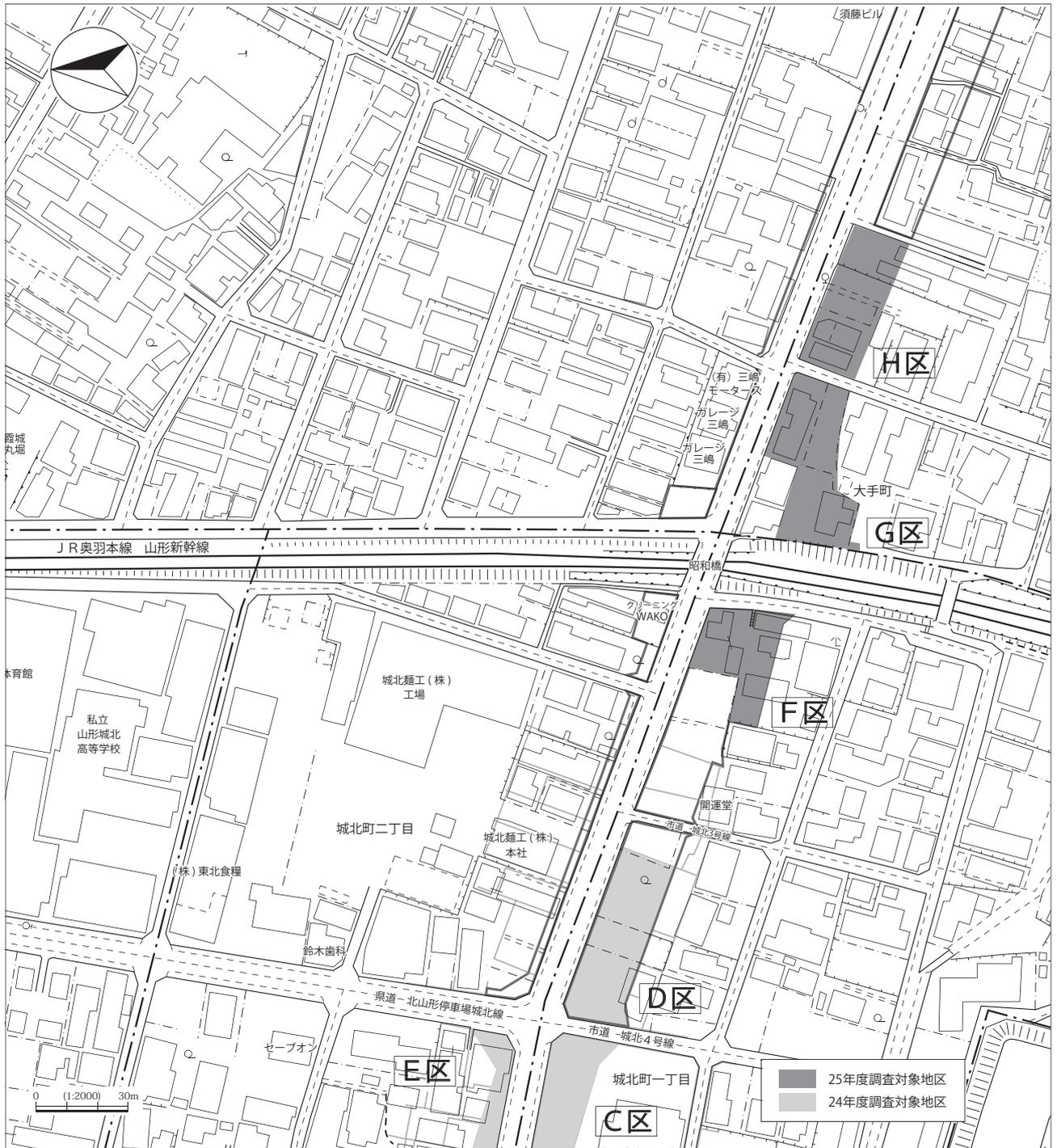


図1 調査区概要図



写真1 F区全景 (北東から)



写真2 F区 SE1156 井戸跡



写真3 G区 ST1209 竪穴住居跡



写真4 G区 SE1198 井戸跡



写真5 G-2区全景 (南東から)



写真6 G区 ST1343 カマド遺物出土状況

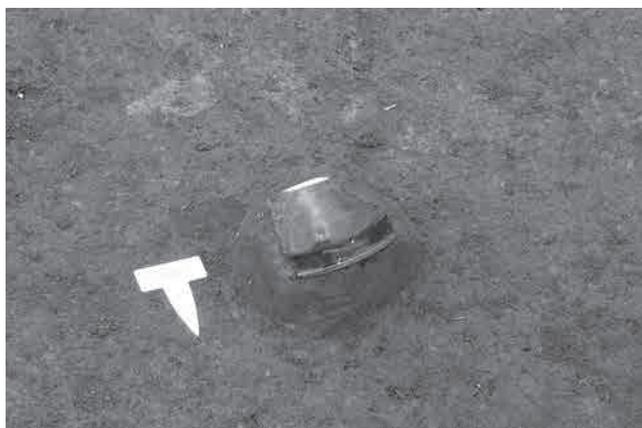


写真7 G区 SK1361 土坑天目茶碗出土状況



写真8 G区 SK1319 土坑瓦出土状況

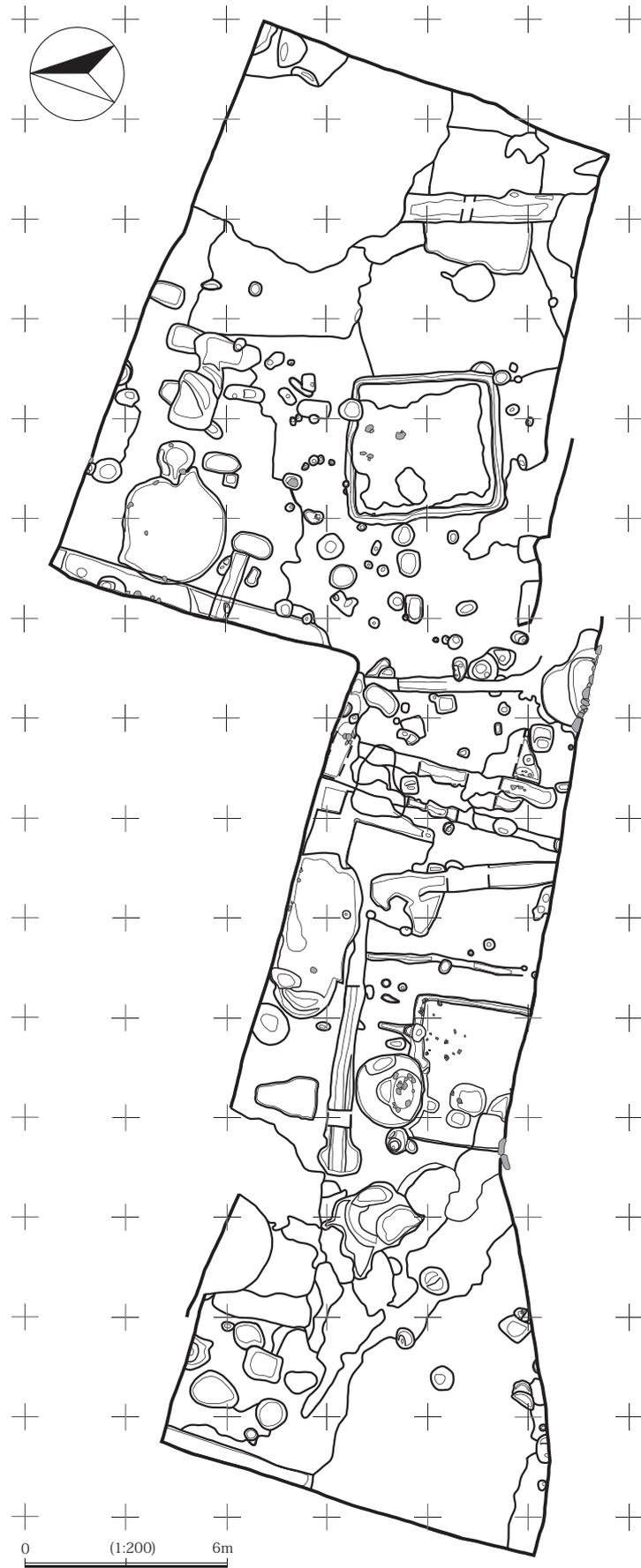
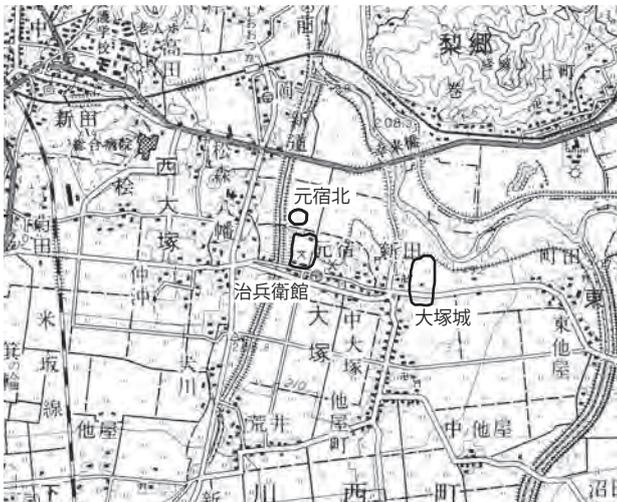


图2 G区遺構配置図

もとじゆくきた
元宿北遺跡

遺跡番号	平成24年度登録
調査回数	第1次
所在地	山形県川西町西大塚字元宿北
北緯・東経	38度2分45秒・140度4分4秒
調査委託者	国土交通省東北地方整備局山形河川国道事務所
起因事業	一般国道113号梨郷道路整備事業
調査面積	3,000㎡
受託期間	平成25年4月1日～平成25年3月31日
現地調査	平成25年5月20日～9月20日
調査担当者	菅原哲文（現場責任者）・高柳俊輔
調査協力	川西町教育委員会・大塚地区交流センター「治平館」
遺跡種別	集落跡
時代	奈良・平安時代・中世
遺構	竪穴状遺構・井戸跡・溝跡・土坑・柱穴・河川跡
遺物	土師器・須恵器・陶磁器・石製品・金属製品（文化財認定箱数：21箱）



調査の概要

元宿北遺跡は、米沢盆地を北流する松川と、松川に合流する元宿川との間に形成された谷底平野に立地する。標高は206mで、遺跡および周囲は水田となっている。主な時代は平安時代と中世である。調査区は1区と2区に分け（図1）、5月20日より1区の調査を開始し、8月20日に2区の調査を実施、9月20日に現地調査を終了した。調査面積は3,000㎡である。

遺構と遺物

主な遺構であるが、井戸跡が3基、竪穴状遺構が1基、

溝跡、土坑、河川跡が確認された。奈良・平安時代の遺構について述べる。SE4井戸跡は、掘り方の直径が約3.5m、井戸本体は1辺約1.2mの方形である（写真3）。底に近い覆土より須恵器片が出土した。元は井戸枠が据えられていたが廃絶の際に抜き取られたと考えられ、材は残っていなかった。1区中央付近で竪穴状遺構SX3が検出された（写真8）。長辺が2.6m、短辺が2.3mの方形で柱穴は無い。熱を受けた礫や須恵器片が出土した。1区の西側から2区では、旧河川跡と考えられるSD1が確認された（写真4・5）。南北方向に流れ、幅は11～15m、深さ50cm以上、長さは25m以上に及ぶ。東岸の覆土上層から、平安時代の須恵器がまとまって出土した。（写真6・7）。平安時代には、SD1は堆積が進んで埋没し、湿地状の地形であったと考えられる。

中世の遺構は、SE7・SE9が確認された。SK5・17も中世になる可能性がある。SE7井戸跡は、掘り方の長辺1.45m、短辺1.3m、深さ1.85mを測り、方形を呈する（写真9・10）。この井戸跡には、一辺が75cmの四角に組んだ井戸枠が残されていた。覆土中から中世の須恵器系陶器の甕の破片が出土している。井戸の底面からは、井戸眼^{まなこ}として据えられたと考えられる曲物が5個体出土した。通常は中央に1個体が据えられ

るが、複数個体が出土した事例は珍しい。井戸枠は上部は腐食していたが、隅柱や横棧、縦板が良好に残っていた。SE 9井戸跡は、掘り方の直径が1.6 mの円形で、深さは約1.1 mである(写真2)。井戸枠は確認されていないが、底面近くの層から板材が出土した。板材のC14年代測定を行ったところ、中世に位置付けられる事が判明した。

調査で出土した遺物は、須恵器や土師器、陶磁器などが中心である。奈良・平安時代の遺物の大部分は河川跡からの出土で、須恵器の坏・高台坏・蓋・壺・甕^{えんめん}・円面^{けん}硯、土師器の坏・甕が確認された。須恵器坏は底部がヘラ切りが中心で、少量の糸切りの個体があり、9世紀前半を中心とする時期と考えられる。円面硯は3個体確認された(写真11)。中世の遺物は、須恵器系陶器甕、越前焼、中国から輸入された青磁碗などが出土した。時代は14～16世紀頃と考えられる。

まとめ

元宿北遺跡は、平安時代9世紀前半頃を中心とする集落跡と考えられる。井戸跡や竪穴状遺構、土坑などが確認され、建物跡も存在した可能性があるが、後世の削平で消失したと思われる。河川跡に廃棄された土器は、煮炊用の土師器甕などは少量で、須恵器坏類・甕類が目立ち、官衙や官衙に関連する遺跡などに出土が多い円面硯が出土するなど、通常の集落とは異なる様相がある。南に隣接して治兵衛館^{じへいたて}遺跡があり平安時代の集落が報告されている。周辺遺跡に未確認の役所に関連する施設が存在していた可能性もある。

中世では、大塚城の山城である治兵衛館跡と同じ時期と考えられる遺物も存在し、今後城跡との関係を検討する必要がある。



写真3 SE4井戸跡完掘状況(西から)



写真1 遺跡全景(北東から)



写真2 SE9井戸跡の調査状況(北から)

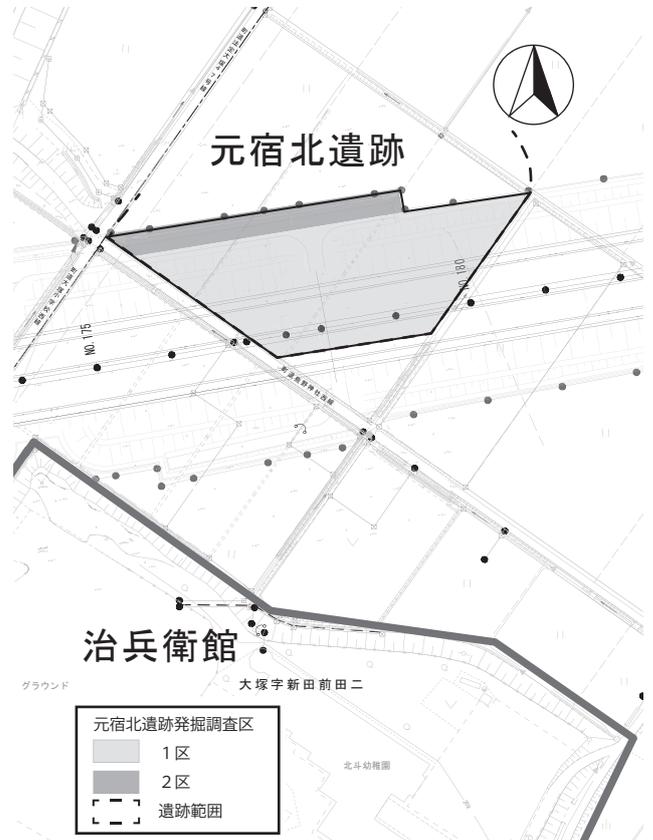


図1 調査区概要図(S=1:2000)

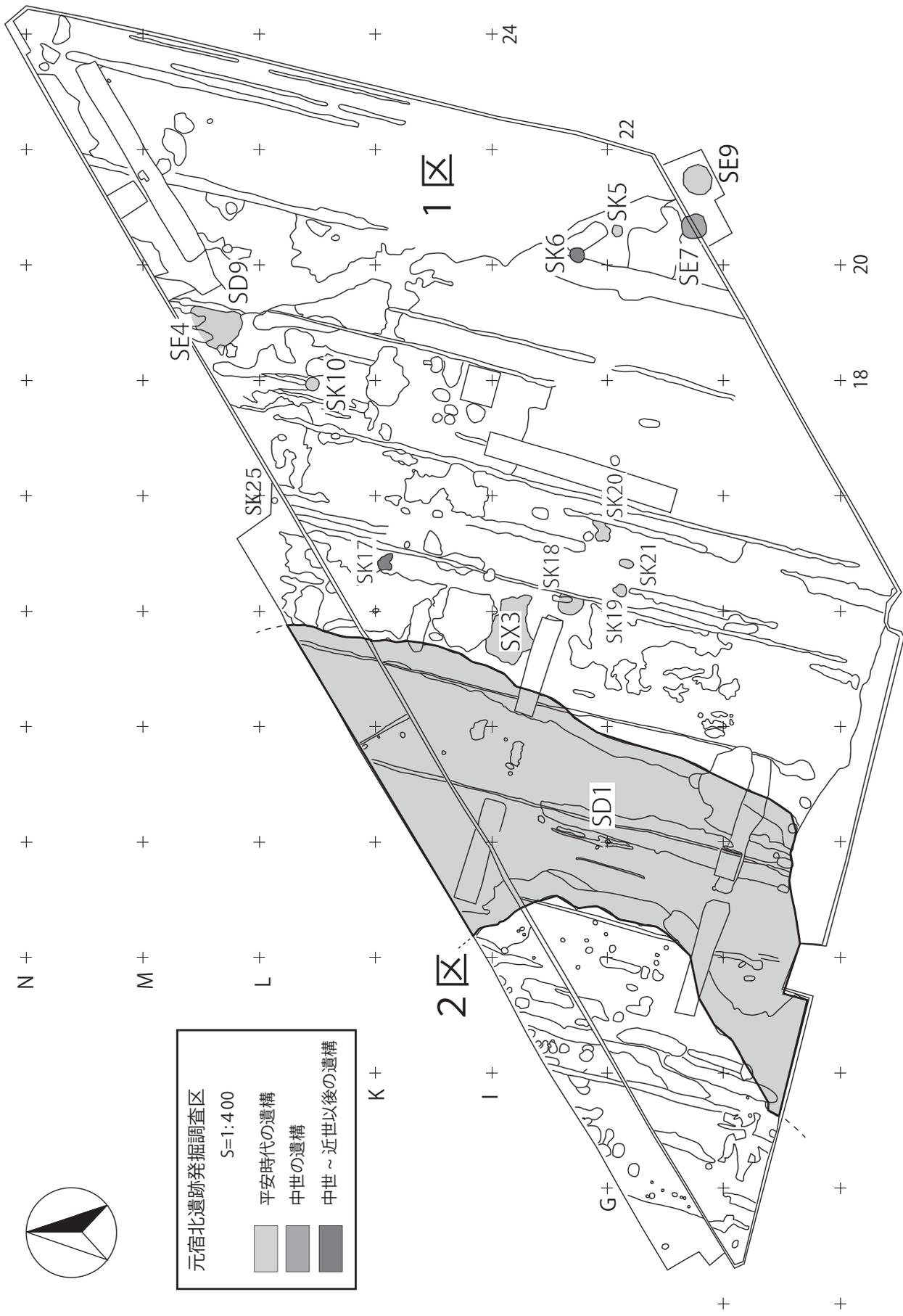


図2 遺構配置図



写真4 SD1 河川跡全景（北東から）



写真5 SD1 河川跡の断面（北東から）



写真6 SD1 須恵器蓋出土状況（北東から）



写真7 SD1 須恵器短頸壺出土状況（南東から）



写真8 SX3 竪穴状遺構（西から）



写真9 SE7 井戸跡完掘状況（西から）



写真10 SE7 内曲物出土状況（南から）



写真11 円面硯

2. 普及・啓発・研究等業務

(1) 研修等

①全国埋蔵文化財法人連絡協議会事業への派遣

ア 総会

期 日 平成25年6月20日～6月21日
 会 場 滋賀県草津市（ホテルボストンプラザ草津）
 派遣職員 事務局長 小笠原正道

イ コンピュータ等研究委員会

期 日 平成25年7月17日～7月19日
 会 場 徳島県徳島市（ホテルグランドパレス徳島）
 派遣職員 総務課長補佐 須賀井新人

ウ ブロック活動

北海道・東北地区会議

期 日 平成25年10月24日～10月25日
 会 場 福島県いわき市（いわき市生涯学習プラザ）
 派遣職員 整理課長 黒坂雅人、専門調査研究員 氏家信行

エ 研修会

期 日 平成25年11月21日～11月22日
 会 場 埼玉県さいたま市（ホテルブリランテ武蔵野）
 派遣職員 専門調査研究員 小林圭一

②埋蔵文化財担当者専門研修への派遣

ア 報告書作成課程

期 日 平成25年7月11日～7月19日
 会 場 奈良文化財研究所
 派遣職員 調査研究員 菊池玄輝

イ 保存科学基礎I（金属製遺物）課程

期 日 平成25年10月8日～10月17日
 会 場 奈良文化財研究所
 派遣職員 調査研究員 草野潤平

(2) 普及啓発

①普及啓発事業実行委員

企画情報室：向田明夫							
センター公開事業			ふるさと考古学講座				研修講座
子ども ミュージアム	センター 参観デー	発掘調査 速報会	遺跡から見た 上山の歴史	縄文 もの作り広場	遺跡を 掘ってみよう	バスで遺跡を 見に行こう	市町村文化財 担当者研修
向田明夫	植松暁彦	齋藤健	菅原哲文	東海林弘和	小林圭一	草野潤平	尾形知哉
後藤枝里子	原田英明	庄司昭一	伊藤大介	氏家信行	後藤枝里子	水戸部秀樹	齊藤主税
五十嵐萌	渡辺和行	山木巧	市川光紀	高桑登	吉田満	川崎康永	高橋敏
	小笠原伊之		安部将平	五十嵐萌	山田めぐみ	長谷部寛	菊池玄輝
	高木茜		高柳俊輔	渡邊安奈		高橋英路	大場正善
	岩崎恒平			板橋龍		(濱田純)	
	森谷康平						

②センター公開事業

ア 「子どもミュージアム」

やまがたアトライン推進事業の「夏休み子どもミュージアムめぐり」の一環として、児童・生徒の夏季休業中に山形県内の遺跡から見つかった出土品を展示した。

期間 平成25年7月29日(月)～8月23日(金)

会場 (公財)山形県埋蔵文化財センター

内容 展示：「道具のむか～し話」～石器からセラミックまでの歴史旅

体験：火起こし、弓矢、土製小玉の腕輪作り

入場者数 167名

イ 山形県埋蔵文化財センター参観デー やまがた埋文祭り2013

センターを会場に、日ごろの業務の様子を再現したり、考古学の面白さを体験を通して紹介した。

期日 平成25年10月6日(日)

会場 (公財)山形県埋蔵文化財センター

内容 考古学体験：整理作業体験、特別展示見学、石器製作実演

体験コーナー：勾玉作り、弓矢体験、等

入場者数 412名



20周年記念特別展示



拓本体験



復元作業体験



弓矢体験



昔風衣装で記念写真



スタンプラリー

ウ 「平成25年度発掘調査速報会」・「センター設立20周年記念講演会」

センターが平成25年度に発掘調査を行った遺跡のうち3遺跡の調査成果の速報会を行った。また、同時開催としてセンター設立20周年記念講演会を行った。

期日 平成25年12月15日(日)

会場 村山市総合文化複合施設 甕葉プラザ^{しょうよう}

内容 速報会：調査の状況をプロジェクターで紹介し、出土品の展示解説を実施した。

講演会：山形大学名誉教授阿子島功氏を講師に迎え、「防災と災害考古学」について御講演をいただいた。

入場者数 約130名



調査遺跡の発表



出土品の展示・解説



阿子島功氏による
記念講演

③ふるさと考古学講座

ア 遺跡を掘ってみよう

期日 平成25年7月21日(日)

会場 八反遺跡(東根市)

内容 遺跡の発掘体験

参加者数 31名



イ 遺跡から見た上山の歴史

展示:「縄文時代の上山」～発掘された遺跡とくらし～

期日 平成25年7月27日(土)～9月1日(日)

会場 上山城1F展示ホール

観覧者数 7039名(期間中の上山城入場者)

講演:「上山の縄文遺跡からわかること」

講師 高柳俊輔(埋文センター職員)

期日 平成25年7月28日(日)

会場 上山城1F特別展示室

参加者数 20名



講演後のギャラリートーク

ウ 縄文もの作り広場

期日 平成25年8月11日(日)

会場 上山城

内容 まが玉作り体験・アンギン編み体験・弓矢体験・石器製作実演

参加者数 46名(まが玉作り・アンギン編みのみ)



まが玉作り



石器製作実演



アンギン編み

エ バスで遺跡を見に行こう

期日 平成25年10月19日(土)

会場 上山市中山城跡、山形市山形城本丸跡・三の丸跡、山形市長谷堂城跡

内容 遺跡・史跡や発掘現場をバスで巡る体験

参加者数 34名



中山城跡



山形城三の丸跡発掘現場



長谷堂城跡

④研修講座

ア 市町村埋蔵文化財担当者研修

期日 平成25年5月10日(金)・6月21日(金)

会場 (公財)山形県埋蔵文化財センター・蟬田遺跡・松橋遺跡(本年度発掘調査現場)

内容 発掘現場における実地研修を通して、市町村文化財担当者の埋蔵文化財に関する理解を深めると共に、発掘調査技術の向上を図る。

参加者数 延べ45名



遺物洗浄の実技研修



遺構実測の実技研修



現場プレハブにて座学

⑤外部展示

「古墳時代の大集落―鶴岡市矢馳A遺跡・山形市川前2遺跡・米沢市鎌倉上遺跡―」

期日 平成25年6月8日～9月22日(休館日 毎週月曜日及び国民の祝日)

会場 山形県立うきたむ風土記の丘考古資料館

内容 「矢馳A遺跡」「川前2遺跡」「鎌倉上遺跡」の出土資料の紹介
(古墳時代の生活雑器、祭祀用土器、木製品、石製品、玉類、
遺跡及び遺物解説パネルの展示)

「最上のあけぼの ～山形北部の縄文時代～」

期日 平成25年9月2日～9月30日

会場 ゆめりあ ストリートギャラリー

内容 新庄市の代表的な遺跡である「中川原C遺跡」の出土資料を紹介し、地域の遺跡への理解を深めてもらう。

(縄文時代の土器、土製品、石器、石製品、遺跡及び遺物解説パネルの展示)

「発掘 山形城三の丸 ～最上義光没後400年～」

期日 平成25年11月1日～11月15日

会場 遊学館 1階ギャラリー

内容 最上義光没後400年を受け、これまでセンターで発掘した山形城三の丸跡の調査成果を紹介

(古代から近・現代に至る、幅広い年代の出土資料と、遺跡の概要紹介・
遺物解説等のパネルの展示)

「奈良・平安時代の暮らし」展

期日 平成26年1月15日～2月16日(年中無休)

会場 山形県身体障がい者保養所 東紅苑

内容 奈良・平安時代の人々の暮らしのようすを示す今塚遺跡・三条遺跡の出土品を紹介
(土師器、須恵器、土製品、木製品及び展示品の解説パネル等の展示)



うきたむ風土記の丘考古資料館



遊学館 1階ギャラリー

⑥学校への協力

No.	派遣校・依頼者名	派遣職員名	実施日	実施内容
1	東根市立東根中部小学校 校長 竹村 健一	後藤枝里子 中川未来絵 小笠原伊之 安部将平	2013年6月3日	6年社会科 「大昔の人々の暮らし」・土器や石器に触れてみよう 火起こし・弓矢体験
2	酒田市立田沢小学校 校長 大谷 敦司	向田明夫 山田めぐみ	2013年6月4日	6年社会科 「大昔の人々の暮らし」・土器や石器に触れてみよう 火起こし・縄文食体験
3	酒田市立浜田小学校 校長 池田 公夫	五十嵐萌 齋藤 健 濱田 純	2013年6月5日	6年社会科 「大昔の人々の暮らし」・土器や石器に触れてみよう 火起こし・弓矢体験
4	米沢市立興譲小学校 校長 須崎 登志	向田明夫 高木 茜 草野潤平	2013年6月6日	6年社会科 「大昔の人々の暮らし」・土器や石器に触れてみよう くるみ割り体験・弓矢体験
5	大石町立大石田北小学校 校長 池田 史明	五十嵐萌 水戸部秀樹 安部将平	2013年6月7日	5・6年社会科 「大昔の人々の暮らし」・土器や石器に触れてみよう 火起こし・弓矢体験
6	山形市立出羽小学校 校長 石塚 直樹	後藤枝里子 菊池玄輝 渡辺和行	2013年6月10日	6年社会科 「大昔の人々の暮らし」・土器や石器に触れてみよう 火起こし・弓矢体験
7	東根市立第一中学校 校長 福永 隆	向田明夫 植松暁彦 高桑 登 川崎康永	2013年6月11日	1年総合 「埋文センターの仕事」「東根市の遺跡について」 土器や石器に触れてみよう・センター職員に取材しよう
8	山形市立南山形小学校 校長 田中 利幸	後藤枝里子 高木 茜 小笠原伊之	2013年6月12日	6年社会科 「大昔の人々の暮らし」・土器や石器に触れてみよう 火起こし・弓矢体験・石器体験
9	山形市立高瀬小学校 校長 柴田 公利	五十嵐萌 大場正善 山田めぐみ	2013年6月13日	6年社会科 「大昔の人々の暮らし」・土器や石器に触れてみよう 火起こし・弓矢体験・石器体験
10	天童市立荒谷小学校 校長 浦山 健一	五十嵐萌 大場正善 山田めぐみ	2013年6月13日	6年社会科 「大昔の人々の暮らし」・土器や石器に触れてみよう 火起こし・弓矢体験
11	山形市立東小学校 校長 伊勢 牧子	向田明夫 中川未来絵 濱田 純 高橋英路	2013年6月14日	6年社会科 「大昔の人々の暮らし」・土器や石器に触れてみよう 石器体験・クルミ割り体験・弓矢体験
12	山形市立第一小学校 校長 荒澤 賢雄	向田明夫 大場正善 渡邊安奈	2013年6月19日	6年社会科 「大昔の人々の暮らし」・土器や石器に触れてみよう 火起こし・弓矢体験
13	米沢市立窪田小学校 校長 棚村 正	五十嵐萌 伊藤大介 山田めぐみ 山木 巧	2013年6月20日	6年社会科 「大昔の人々の暮らし」・土器や石器に触れてみよう 火起こし・弓矢体験・石器体験
14	天童市立長岡小学校 校長 山澤 勉	後藤枝里子 中川未来絵 安部将平 草野潤平	2013年6月21日	6年社会科 「大昔の人々の暮らし」・土器や石器に触れてみよう 縄文食体験
15	村山市立戸沢小学校 校長 布川 和則	後藤枝里子 濱田 純	2013年6月25日	6年社会科 「大昔の人々の暮らし」・土器や石器に触れてみよう 火起こし・弓矢体験
16	最上町立富沢小学校 校長 長谷部 薫	向田明夫 菊池玄輝	2013年6月26日	6年社会科 「大昔の人々の暮らし」・土器や石器に触れてみよう 火起こし・弓矢体験
17	鶴岡市立五十川小学校 校長 越中 聡	五十嵐萌 渡辺和行	2013年6月27日	5・6年社会科 土器や石器に触れてみよう 火起こし・弓矢体験・縄文食体験
18	山形市立みはらしの丘小学校 校長 鈴木 一尋	向田明夫 後藤枝里子 水戸部秀樹 渡邊安奈	2013年7月7日	6年社会科 「大昔の人々の暮らし」・土器や石器に触れてみよう 火起こし・弓矢体験・まが玉作り
19	三川町立東郷小学校 校長 五十嵐良克	向田明夫 高木 茜	2013年7月8日	6年社会科 「大昔の人々の暮らし」・土器や石器に触れてみよう 縄文食体験
20	米沢市立関小学校 校長 上村 幸治	後藤枝里子 山木 巧	2013年7月9日	3～6年社会科 「大昔の人々の暮らし」・土器や石器に触れてみよう 石器体験・クルミ割り体験・弓矢体験
21	鶴岡市立温海小学校 校長 大塚 等	向田明夫 渡邊安奈	2013年7月16日	6年社会科 「大昔の人々の暮らし」・土器や石器に触れてみよう 火起こし・弓矢体験
22	上市市立西郷第二小学校 校長 村上 宏幸	五十嵐萌 齋藤 健 植松暁彦	2013年7月20日	5・6年社会科 「大昔の人々の暮らし」・土器や石器に触れてみよう まが玉作り・縄文食体験
23	朝日町立西五百川小学校 校長 奥山 勝弘	五十嵐萌 伊藤大介	2013年7月22日	6年社会科 土器や石器に触れてみよう 火起こし・石器体験・クルミ割り体験

⑦来所者

ア.見学・研修等

No	来所者	期 日	人数	内容
1	山形県立山形聾学校6年生	2013年4月30日	3	施設見学・体験学習 (縄文食体験・火起こし)
2	上山市立南小学校5年生	2013年5月1日	114	施設見学
3	山形市民	2013年5月13日	3	施設見学
4	米沢市教育委員会	2013年5月16日	2	施設利用(赤外線撮影)
5	天童市教育委員会	2013年5月16日～8月9日	1	施設利用・実地研修 〈道出遺跡〉
6	山形市民	2013年6月5日	1	施設見学
7	上山市教育委員会	2013年6月13日	11	施設見学・施設利用・体験学習 (火起こし)
8	山形市立第六小学校第4学年PTA	2013年6月14日	4	施設利用
9	山形市小学校教育研究会生活科・総合部会	2013年6月26日	40	遺跡見学・施設利用・体験学習 (発掘体験)〈山形城三の丸跡〉
10	上山市身体障がい者福祉協会女性部会	2013年6月28日	25	施設見学・体験学習 (アンギン編み)
11	上山市内中学校 2年生	2013年7月2日～4日	4	職場体験
12	上山市小中教育研究会地域学習部	2013年7月29日	13	施設見学
13	上山市中山地区公民館	2013年8月9日	19	施設見学・体験学習 (火起こし)
14	山形県立米沢興譲館高等学校	2013年8月9日	41	施設見学・施設利用
15	村山市立西郷小学校6年生	2013年10月3日	46	遺跡見学〈八反遺跡〉
16	上山市南部地区民生児童委員協議会	2013年10月7日	25	施設見学
17	上山市立南小学校2年生	2013年10月8日・9日	116	施設見学
18	上山市小中教育研究会生活科・総合的な学習部会	2013年11月13日	6	施設見学・施設利用・体験学習 (まが玉作り)
19	寒河江市教育委員会・寒河江市文化財保護委員	2013年12月3日	8	施設見学
20	作野遺跡発掘作業員の会	2013年12月5日	5	施設見学
21	山形市民	2013年12月24日	2	施設見学

イ.図書閲覧

No	来所者	期 日	閲覧目的
1	山形市民	2013年4月9日・12日	原稿執筆のため
2	山形市民	2013年4月19日	研究のため
3	山形市民	2013年6月7日	講義資料作成のため
4	埼玉県民	2013年9月9日	研究のため
5	米沢市教育委員会文化課	2013年9月17日	報告書作成のため
6	仙台市富沢遺跡保存館	2013年10月11日	研究のため

ウ.資料調査

No.	来所者	期 日	対象遺跡
1	早稲田大学会津八一記念博物館	2013年4月30日～5月2日	砂子田遺跡、かっぱ遺跡
2	東京大学考古学研究室	2013年5月23日	富沢遺跡、太郎水野遺跡、お仲間林遺跡
3	立正大学講師	2013年6月3日	押出遺跡
4	東北学院大学文学部 教員 客員教授	2013年6月11日	太郎水野遺跡、お仲間林遺跡
5	阿佐ヶ谷先史学研究会	2013年8月26日	押出遺跡
6	東北芸術工科大学 学生A	2013年9月3日・30日 10月15日	宮の前遺跡、宮下遺跡、釜淵C遺跡、渡戸遺跡、落合遺跡
7	東北芸術工科大学 学生B	2013年10月16日・22日・29日 11月25日	オサヤズ窯跡、泉森南窯跡、小松原窯跡、泉森窯跡
8	明治大学 学生	2013年10月24・25日	お仲間林遺跡
9	東京大学大学院 学生	2013年11月19日	宮の前遺跡、高瀬山遺跡
10	東北芸術工科大学 学生C	2013年12月5日・6日	三条遺跡
11	青森県埋蔵文化財調査センター	2013年12月12日	富沢 I 遺跡、高瀬山遺跡(HO)
12	首都大学東京 教授	2014年1月27日	押出遺跡
13	秋田県埋蔵文化財センター	2014年2月24日	今塚遺跡、生石2遺跡、熊野田遺跡、手蔵田10遺跡、山田遺跡、三条遺跡、大坪遺跡、上高田遺跡
14	山形大学人文学部 准教授	2014年2月24日	山田遺跡、大坪遺跡、上高田遺跡
15	東北大学大学院 准教授 客員研究員 学生	2014年2月27日	お仲間林遺跡、高瀬山遺跡
16	山形市民	2014年3月10日	三軒屋物見台遺跡

⑧調査説明会

No.	市町村	遺跡名	開催日	遺跡種別	参加者数
1	村山市	道出遺跡 第1・2次	2013年7月26日	散布地	20
2	川西町	元宿北遺跡	2013年8月10日	集落跡	30
3	東根市	八反遺跡 第3次	2013年10月5日	集落跡・墓跡	140
4	村山市	蟬田遺跡 第2次	2013年10月5日	集落跡	120
5	村山市	松橋遺跡 第2次	2013年10月5日	集落跡	120
6	山形市	山形城三の丸跡 第13次	2013年10月21日	集落跡・城館跡	60

⑨職員派遣等

No	派遣職員名	依頼者名	派遣場所	年月日	内容
1	天本昌希	木簡学会	執筆依頼	2013年4月26日	会誌『木簡研究』掲載の山形城三の丸跡出土木簡の報文
2	黒坂雅人 五十嵐萌	NHK山形放送局	舟形町舟形 西ノ前遺跡	2013年5月21日	番組取材
3	大場正善	仙台市富沢遺跡保存館	執筆依頼	2013年5月22日	平成25年度特別企画展示解説図録
4	黒坂雅人 五十嵐萌	NHK山形放送局	山形県埋蔵文化財室	2013年6月4日	番組取材
5	大場正善	東京大学	東京大学 柏の葉キャンパス	2013年6月13日 ～15日	山形県大江町長畑遺跡発掘調査出土資料の分析
6	齊藤主税	舟形町教育委員会	舟形町中央公民館	2013年7月9日	講演「縄文時代ってどんな時代？西ノ前遺跡ってどんな遺跡？」講師
7	黒坂雅人	最上地域史研究会	新庄市民プラザ	2013年7月14日	講演「縄文の女神のふるさと」講師
8	黒坂雅人 小林圭一 菅原哲文	舟形町教育委員会	舟形町中央公民館	2013年8月4日	国宝土偶シンポジウム コメンテーター・コーディネーター
9	水戸部秀樹	名古屋大学大学院	名古屋大学文学研究科	2013年8月6日 7日	「アコリス近郊の古代採石場調査：近年の進展と今後の展望」研究発表
10	黒坂雅人	うきたむ風土記の丘考古資料館	うきたむ風土記の丘考古資料館	2013年8月11日	講演「山形県埋蔵文化財センター20年の成果」講師
11	大場正善	仙台市富沢遺跡保存館	仙台市富沢遺跡保存館	2013年8月18日	講演「旧石器人の石器づくりの技を復元する！」石器製作実演
12	大場正善	浅間縄文ミュージアム	浅間縄文ミュージアム	2013年9月14日 15日	シンポジウム「日本列島に於ける細石刃石器群の起源」 石器製作実演・パネラー
13	黒坂雅人 後藤枝里子	大泉地区文化財愛護会	鶴岡市農村センター	2013年9月19日	講演「縄文時代の遺跡とくらし」講師 及び体験活動の指導
14	向田明夫 五十嵐萌	朝日少年自然の家	朝日少年自然の家	2013年9月22日	朝日どきどき広場「朝少まるごと縄文村」における体験活動の指導
15	小林圭一	秋田県埋蔵文化財センター	能代市中央公民館	2013年10月18日 19日	講演「縄文前期の社会」講師
16	高桑登	長瀬郷土史研究会	長瀬公民館	2013年10月26日 27日	八反遺跡出土品展示に係るギャラリートーク
17	大場正善	早稲田大学文学部	早稲田大学文学部考古学研究室	2013年11月15日	考古学演習「実験考古学」講師 石器製作実演
18	黒坂雅人	文化財・生涯学習課	舟形町 西ノ前遺跡	2013年11月21日	「縄文の女神」紹介ビデオの作製
19	水戸部秀樹	大石田町教育委員会	大石田町 角二山遺跡	2013年11月25日	角二山遺跡試掘調査に係る指導
20	植松暁彦	山形市立鈴川小学校	山形市立鈴川小学校	2013年12月5日	6学年総合学習「生き方を学ぶ」講師
21	小林圭一	東北芸術工科大学	八戸市総合福祉会館	2013年12月14日	公開講座「八戸の集落一万年」講師
22	高橋 敏	山形県立博物館	山形県立博物館	2013年12月14日	考古学講座「古墳時代の村山」 『破鏡の意味するもの』講師
23	菅原哲文	うきたむ風土記の丘考古資料館	うきたむ風土記の丘考古資料館	2014年2月9日	考古資料検討会 「元宿北遺跡について」講師
24	黒坂雅人 水戸部秀樹 菅原哲文 小林圭一 植松暁彦	放送大学山形学習センター	山形市保健センター	2014年2月16日	山形の縄文フォーラム 特別報告、報告、全体討議
25	向田明夫 後藤枝里子 五十嵐萌 大場正善 東海林弘和 森谷康平	放送大学山形学習センター	霞城セントラル1Fアトリウム	2014年2月16日	山形の縄文フォーラム 縄文体験イベントの指導 石器製作実演
26	齊藤主税	舟形町教育委員会	舟形町中央公民館	2014年2月25日	第3回舟形町文化財保護委員会 講話「西ノ前遺跡をどのように整備していくべきか」講師

⑩資料貸出

No	貸出先	借用目的	貸出期間	資料名	数量
1	山形市立滝山小学校	授業で使用するため	2013年4月17日 ～4月26日	縄文土器 石器セット	3 4箱
2	東北芸術工科大学	授業で使用するため	2013年4月25日 ～5月31日	服部藤治屋敷遺跡出土遺物	18
3	山形県立うきたむ風土記の丘考古資料館	特別テーマ展「古墳時代の集落」展に展示するため	2013年5月7日	鎌倉上遺跡関連写真資料	1
4	山形大学付属小学校	授業で使用するため	2013年5月8日 ～6月26日	山形市空撮写真	3
5	山形県立博物館	企画展「最上川流域の文化と景観」に展示するため	2013年5月21日 ～7月20日	西ノ前遺跡、生石2遺跡、小田島城跡 出土遺物	30
6	東北芸術工科大学	授業で使用するため	2013年6月6日 ～7月15日	お仲間林遺跡出土遺物	28
7	舟形町教育委員会	「縄文の女神」里帰り展での展示で使用するため	2013年7月1日 ～11月29日	西ノ前遺跡出土遺物 及び関連写真資料	84 9
8	東北芸術工科大学	授業で使用するため	2013年6月18日 ～7月15日	お仲間林遺跡出土遺物	6
9	仙台市富沢遺跡保存館	特別展「ひらけ！旧石器人の道具箱―東北の旧石器人―」にて展示、掲載するため	2013年6月28日 ～9月30日	高瀬山遺跡(HO)3期、太郎水野1遺跡、お仲間林遺跡、弓張平B遺跡、月山沢遺跡出土遺物	97
10	寒河江市教育委員会	寒河江市埋蔵文化財フェアの展示資料として使用するため	2013年8月6日 ～8月28日	高瀬山遺跡(1期)、高瀬山遺跡(HO)、うぐいす沢遺跡、渡戸遺跡、山居遺跡、宮の前遺跡、中村A遺跡出土遺物	131
11	長井市教育委員会	長井市古代の丘資料館企画展『木柱と石斧』展示及び図録掲載のため	2013年8月14日 ～11月15日	熊ノ前遺跡、東興野B遺跡、泥部遺跡、吹浦遺跡第3・4次、川口遺跡、西ノ前遺跡、宮の前遺跡、野新田遺跡、市野々向原遺跡、中川原C遺跡、下叶水遺跡、川内袋遺跡出土遺物	188
12	山形県教育庁文化財・生涯学習課	うきたむ風土記の丘開館20周年記念企画「山形古代史発掘40年」に展示するため	2013年8月15日 ～12月10日	県内各所67遺跡出土遺物	205
13	山形県立図書館	山形県立図書館テーマ展「最上義光とその時代」で展示するため	2013年9月25日	亀ヶ崎城跡 写真資料 報告書文面資料	1 1
14	山形県立うきたむ風土記の丘考古資料館	第21回企画展『古代史発掘40年-埋蔵文化財保護40年の成果』の展示パネルに使用するため	2013年9月30日	西ノ前遺跡、太夫小屋2遺跡、藤治屋敷遺跡、長表遺跡、馬洗場B遺跡、板橋2遺跡、梅野木前遺跡、百刈田遺跡、西谷地遺跡、沢田遺跡、三軒家物見台遺跡、下槇遺跡、西海淵遺跡、生石2遺跡 各遺跡写真資料	不明
15	奈良県立橿原考古学研究所附属博物館	特別陳列「十二支の考古学-午-」の展示パネル作成のため	2013年10月24日	俵田遺跡 写真資料	4
16	山形県立うきたむ風土記の丘考古資料館	企画展示に使用するため	2013年11月1日 ～11月21日	水上遺跡、熊の前遺跡、来迎寺遺跡、水上遺跡2次、福田山A・B遺跡、仁間磯ノ沢遺跡、水木田遺跡、げんだい遺跡、西の前遺跡、蔵台遺跡、津谷遺跡、中台4・5遺跡、中川原C遺跡1～3次、かっぱ遺跡、釜淵C遺跡、地坂台遺跡、下中田遺跡、太郎水野1・2遺跡、下大曾根遺跡 各遺跡アルバム	22冊
17	天童市西沼田遺跡公園	ミニ企画展「西沼田遺跡とその周辺」に展示するため	2014年1月10日 ～3月25日	願正壇遺跡、蔵増押切遺跡、高揃南遺跡出土遺物 及び関連写真資料	56 44

①資料掲載許可

No	貸出先	借用目的	資料名	数量
1	さくらんぼテレビ	ニュース報道のため	縄文の女神レプリカ	1
2	(株)ジャパン通信情報センター	「文化財発掘出土情報」2013年6～7月号に掲載するため	清水西遺跡発掘調査状況写真資料、説明会資料	5
3	寒河江市教育委員会	「慈恩寺国史跡総合広報誌 慈恩寺Times」へ掲載するため	上の寺遺跡写真資料	1
4	NHK山形放送局	国宝土偶を紹介する番組で使用するため	西ノ前遺跡土偶出土状況写真資料	7
5	株式会社平凡社 別冊太陽	別冊太陽「縄文の世界」に掲載するため	山居遺跡土偶写真資料	1
6	NHK山形放送局	国宝土偶を紹介する番組で使用するため	西ノ前遺跡 縄文の女神関連写真資料	12
7	神奈川県民	著書「丘と岡があかす天孫降臨」に挿絵として転載するため	馬洗場B遺跡 破鏡資料(実測図)	1
8	株式会社ハイスタッフ	国宝土偶を紹介するビデオを作成するため	西ノ前遺跡 縄文の女神関連写真資料	11
9	株式会社大修館書店	刊行書籍『歴博国際シンポジウム 古代日本と古代朝鮮の文字文化交流(仮)』に掲載するため	上高田遺跡 写真資料	1
10	一般社団法人日本考古学協会	『日本考古学年報』65巻頭写真に掲載のため	蔵増宮田遺跡 写真資料	4
11	山形市教育委員会	「山形を学ぶ」推進事業のテキストに掲載するため	山形西高敷地内遺跡5次 写真資料	1
12	株式会社同成社	刊行書籍『出土文字に新しい古代史を求めて』に掲載のため	上高田遺跡 写真資料	1
13	寒河江市教育委員会	「慈恩寺総合調査報告書」へ掲載のため	上の寺遺跡 写真資料	18
14	(株)ジャパン通信情報センター	「文化財発掘出土情報—各地の動向」に掲載のため	山形城三の丸跡 写真資料 調査説明会資料	10
15	国友鉄砲の里資料館	鉄砲の里資料館のフェイスブックに掲載のため	研究紀要第6号掲載の火縄銃関連写真資料	15

②出版物

ア.普及・業務報告

書名	発行年月日
埋文やまがた第51号	2013年9月15日
埋文やまがた第52号	2014年1月31日

イ.調査説明会資料

書名	発行年月日
道出遺跡第1次・第2次	2013年7月26日
元宿北遺跡	2013年8月10日
八反遺跡第3次	2013年10月5日
松橋遺跡第2次	2013年10月5日
蟬田遺跡第2次	2013年10月5日
山形城三の丸跡第13次	2013年10月21日

ウ.調査報告書

シリーズ No	書名	発行年月日
209	蔵増宮田遺跡発掘調査報告書	2014年3月31日
210	馳上遺跡第5次・西谷地b遺跡第3次発掘調査報告書	〃
211	森の原遺跡第3次発掘調査報告書	〃
212	押出遺跡第4・5次発掘調査報告書	〃
213	八合田遺跡・森の原遺跡第1・2次・今宿大谷地遺跡発掘調査報告書	〃
214	山形城三の丸跡第12次発掘調査報告書	〃

エ.発掘調査報告会資料

資料名	発行年月日
平成25年度発掘調査速報会	2013年12月15日

オ.その他

資料名	発行年月日
平成24年度 年報	2013年5月13日
研究紀要第6号	2014年3月31日

⑬ホームページ

主な項目と内容は以下のとおりです。

発掘調査遺跡一覧	発掘調査遺跡や整理作業中の遺跡の紹介
発掘調査速報	調査期間中、遺跡ごとの調査状況を毎週更新して紹介
イベント情報	ふるさと考古学講座、調査説明会、外部展示、各種イベント情報の提供
センター刊行物案内	調査報告書、広報誌などの刊行物の紹介
学校教育への協力	出前授業の紹介、埋蔵文化財を活かした授業のアイデアなどの提供とその状況など
埋文やまがた	広報誌「埋文やまがた」を紹介するとともに、これまでに刊行したバックナンバーの閲覧
センター概要	センターの紹介や、情報公開制度に基づいた、センター情報の提供

(3) 情報処理

収蔵図書データベース	新収蔵図書 1719冊 のデータ入力実施(File Maker Pro使用)
------------	--

ISSN 1341-397X

年 報

平成25年度

2014年5月1日 発行

発 行 公益財団法人 山形県埋蔵文化財センター
〒999-3246
山形県上山市中山字壁屋敷5608番地
☎023-672-5301(代)

印 刷 中央印刷株式会社



Yamagata Archaeology Center

当センターの記章として
いるこの図柄は、
Yamagata
Archaeology
Center
の3つの頭文字をあしらっ
たものです。特にYは、国
宝「縄文の女神」をイメー
ジしています。